平成24年度版　飛騨･美濃じまん白書

平成２３年度　飛騨・美濃じまん運動の進捗について

岐阜県観光交流推進局

目　次

P

第１章　岐阜県の観光の現状と課題

１　本県の観光の現状
　　～平成２３年岐阜県観光入込客統計調査結果～　1
２　本県の観光振興施策の方向性　7

第２章　「観光王国飛騨・美濃」に向けて実施した主な取組（６つのプロジェクト別）

１　岐阜の宝もの認定プロジェクト　10
２　飛騨・美濃じまん観光誘客プロジェクト　17
３　飛騨・美濃じまん海外戦略プロジェクト　25
４　県産品ブランド力向上プロジェクト　30
５　まちづくり支援・移住定住推進プロジェクト　44
６　「ふるさとの誇り」づくりプロジェクト　53

参考資料

・　平成２２年度の飛騨・美濃じまん運動の推進に向けた検討状況　58
・　みんなでつくろう観光王国飛騨・美濃条例　60

1　岐阜県の観光の現状と課題

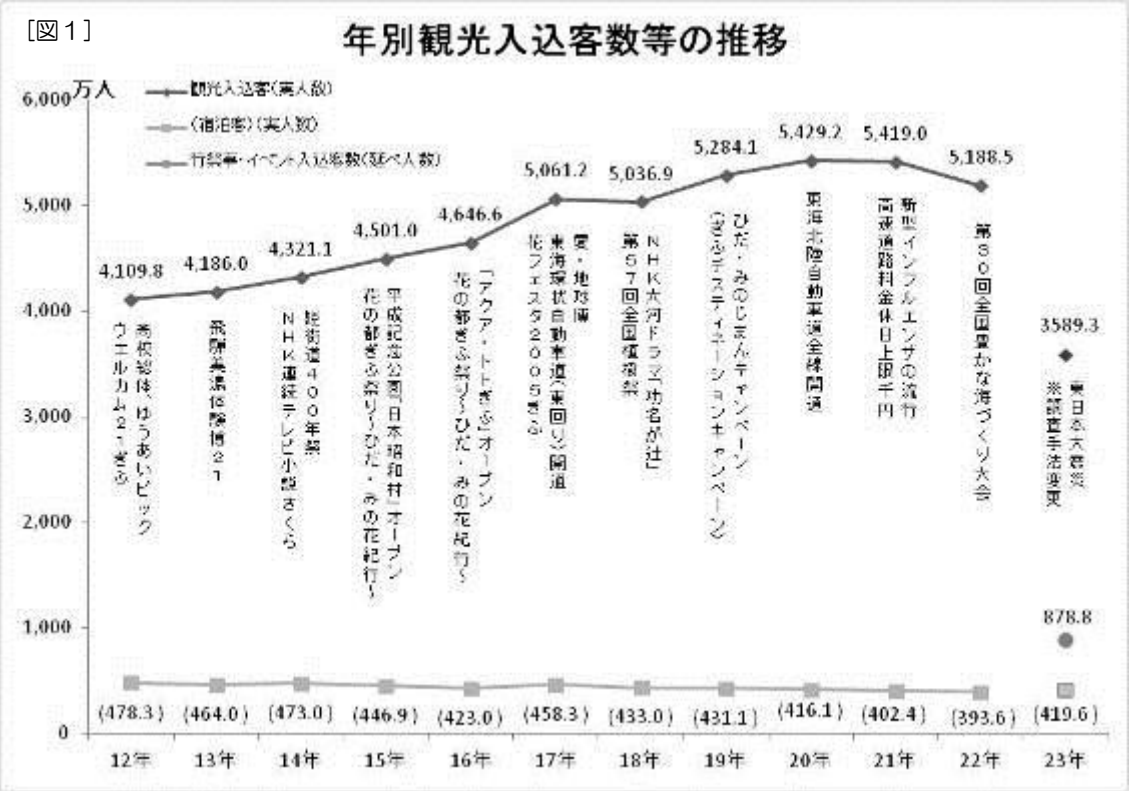
1　本県の観光の現状　～平成23年岐阜県観光入込客統計調査～

（１）観光入込客数

平成２３年の観光入込客数（実人数）は、３月に発生した東日本大震災直後に旅行の自粛ムードの高まり、イベントの中止等の影響があったものの、官民一体による積極的な誘客キャンペーン等を実施した結果、日帰り客数が３，１６９万７千人、宿泊客数が４１９万６千人で、全体では３，５８９万３千人となった。［図１］

※平成２３年分調査より、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準」を導入しており、前年までの岐阜県観光レクリエーション動態調査とは調査手法が異なるため、比較はできない。

［図１］



出展）「平成２３年岐阜県観光入込客統計調査」

※）実人数：同じ観光客が県内の複数の観光地点を訪れたり、２泊以上宿泊したとしても、実際の観光客数は一人であることから、延べ観光客数からパラメータを用いて実人数を推計する。

観光地点毎の入込客数の県内トップは、１位が「土岐プレミアム・アウトレット」（土岐市）で５３１万５千人、２位が「河川環境楽園（アクア・トトぎふ含む）」（各務原市）で４１０万８千人、３位が「高山地域」（高山市）で２２４万７千人となった。［表１］

［表１］観光地点別入込客数順位（ベスト10）

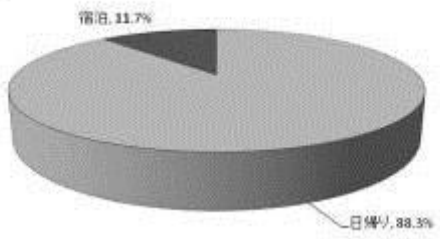
順位	観光地点名	観光客数（万人）
1	土岐プレミアム・アウトレット	531.5
2	河川環境楽園（アクアトト含む）	410.8
3	高山地域	224.7
4	千代保稲荷神社	197.8
5	伊奈波神社	152.0
6	千本松原・国営木曽三川公園	150.7
7	世界イベント村ぎふ	137.8
8	下呂温泉	117.1
9	白川郷合掌造り集落	116.7
10	岐阜公園	82.1

出展）「平成２３年岐阜県観光入込客統計調査」

（２）観光客の内訳

①日帰り・宿泊別観光客数

［図２］



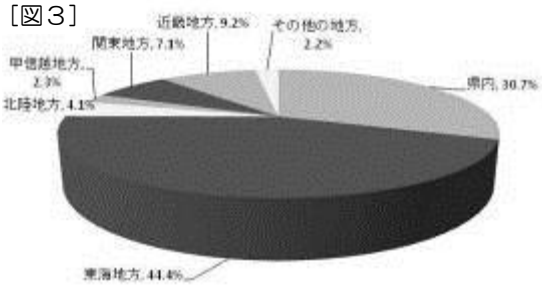
平成２３年の観光入込客数は３，５８９万３千人であったが、これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は３，１６９万７千人、宿泊客は４１９万６千人、日帰り客が全体の 88.3%を占めている。［図２］

圏域別に見ると、西濃圏域が日帰り客の割合が最も高く（構成比 96.1%）、中濃・東濃についても日帰り客が９割以上を占める。

一方で飛騨圏域は、日帰り客 51.1%、宿泊客 48.9%と他圏域に比べ宿泊客の割合が高く、県全体の宿泊客４１９万６千人のうち２３６万２千人と全体の 56.3%を占めた。

②居住地別観光客数

［図３］



居住地別に見ると、県全体では県内客は１，１０２万３千人（構成比30.7%）、県外客は２，４８７万人（構成比69.3%）と、県外客が多くを占めた。特に飛騨圏域では県外客の割合が81.4%と高い。

県全体では、県外客のうち 64.1%が東海地方からの観光客であり、以下近畿地方、関東地方と続いている。［図３］

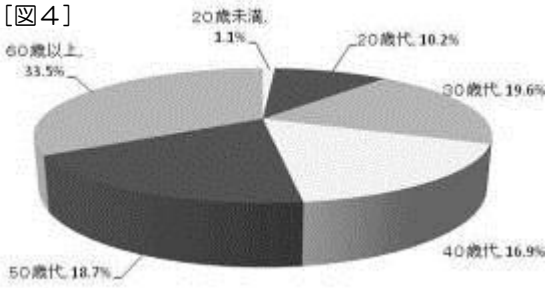
圏域別で見ると、東海地方からの観光客の割合は、西濃圏域、岐阜圏域、中濃圏域、東濃圏域の順に高い。一方、飛騨圏域は他圏域よりやや低く、関東地方からの観光客の割合と同程度である。

③男女別・年齢別観光客数

男女別で見ると、男性が２，０８２万３千人（構成比 58.0%）、女性は１，５０７万人（構成比 42.0%）と男性が多かった。

年齢別では、６０歳以上が33.5%と最も多く、以下３０歳代、５０歳代と続いている。［図４］

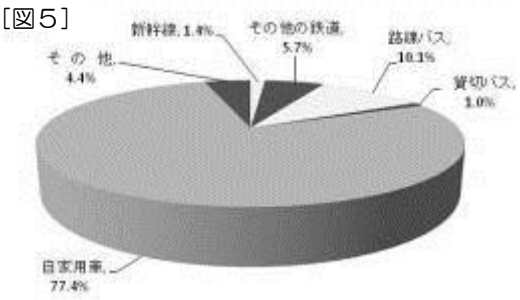
［図４］



④利用交通機関別観光客数

利用交通機関別に見ると、自家用車が最も多く全体の77.4%を占め、鉄道や路線バスなどの公共交通機関の割合は低い。［図５］

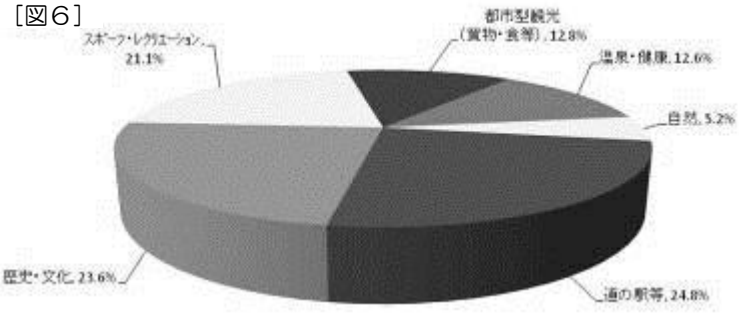
［図５］



⑤観光地分類別観光客数

観光地分類別に見ると、「道の駅等」、「歴史・文化」、「スポーツ・レクリエーション」の順に多く、以下、「都市型観光（買物・食等）」、「温泉・健康」、「自然」と続く。［図６］

［図６］



圏域別で見ると、岐阜圏域は「道の駅等」や「歴史・文化」、西濃圏域は「歴史・文化」や「スポーツ・レクリエーション」、中濃圏域は「スポーツ・レクリエーション」や「道の駅等」、東濃圏域は「都市型観光（買物・食等）」や「道の駅等」、飛騨圏域は「歴史・文化」や「温泉・健康」が多い。

（３）外国人宿泊客数

外国人の宿泊客数（実人数）は９万８千人であった。

（４）行祭事・イベント入込客数

平成２３年の行祭事・イベント入込客数（延べ人数）は８７８万８千人であった。なお、東日本大震災の影響により、「長良川花火大会」（平成２２年は６５万人）や、「道三まつり」（平成２２年は４１万人）など、例年多くの入込客数を誇る行祭事・イベントが中止となった。

［表２］行祭事・イベント入込客数順位（ベスト10）

順位	観光地点名	観光客数（万人）
1	ぎふ信長まつり	40.0
2	チューリップ祭り	34.3
3	高山祭	32.5
4	土岐美濃焼まつり	32.0
5	郡上おどり	26.6
6	濃尾大花火（羽島市・一宮市市民花火大会）	26.0
6	元気ハツラツ市	26.0
6	刃物まつり	26.0
9	日本ライン夏まつり納涼花火大会	25.0
10	各務原市桜まつり	23.2

出展）「平成２３年岐阜県観光入込客統計調査」

行祭事・イベント毎の入込客数の県内トップは、１位が「ぎふ信長まつり」（岐阜市）で４０万人、２位が「チューリップ祭」（海津市）で３４万３千人、３位が「高山祭」（高山市）で３２万５千人となった。［表２］

（５）各圏域の動向

［表３］　＜圏域別観光入込客数、行祭事・イベント入込客数）＞　（単位：万人）

	日帰り客数	宿泊客数	観光入込客数（実人数、合計）	行祭事・イベント入込客数（延べ人数）
岐阜圏域	６８８．６	８１．８	７７０．５	２０６．８
西濃圏域	７２７．８	２９．８	７５７．６	２３４．０
中濃圏域	７４５．７	３１．８	７７７．５	１４５．２
東濃圏域	７６０．８	４０．０	８００．８	２２０．９
飛騨圏域	２４６．８	２３６．２	４８２．９	７１．９
合　　計	３，１６９．７	４１９．６	３，５８９．３	８７８．８

※千人未満を四捨五入しているため、内訳の計は合計と一致しないことがある。

①岐阜圏域

・観光入込客数は７７０万５千人で、このうち、日帰り客数は６８８万６千人、宿泊客数は８１万８千人であった。行祭事・イベント入込客数（延べ人数）は２０６万８千人であった。

・観光地点別、行祭事・イベント別入込客数についてみると、東日本大震災の影響により「長良川花火大会」や「道三まつり」、「手力の火祭」などの主要な行祭事・イベントが中止となった。一方で、国宝薬師寺展が開催された「岐阜市歴史博物館」や、前年は大雨の中の開催で来場者が大幅減少したことと平成２３年は近隣の花火が中止となったことが影響した「日本ライン夏まつり納涼花火大会」では例年より増加した。

②西濃圏域

・観光入込客数は７５７万６千人で、このうち、日帰り客数は７２７万８千人、宿泊客数は２９万８千人であった。行祭事・イベント入込客数（延べ人数）は２３４万人であった。

・観光地点別、行祭事・イベント別の入込客数についてみると、東日本大震災の影響により「大垣花火大会」や、「谷汲さくらまつり」、「池田サクラまつり」が中止となった。また、台風被害により「伊吹山ドライブウェイ」が一定期間営業休止となり減少した。一方で、関ヶ原東西武将隊の結成と武将隊を中心としたイベント等の積極的な開催により「関ヶ原合戦古戦場」で増加した。

③中濃圏域

・観光入込客数は７７７万５千人で、このうち、日帰り客数は７４５万７千人、宿泊客数は３１万８千人であった。行祭事・イベント入込客数（延べ人数）は１４５万２千人であった。

・観光地点別、行祭事・イベント別の入込客数についてみると、東日本大震災の影響により「関まつり」や「美濃まつり・さくらまつり」、「ツアーオブジャパン　美濃ステージ」、「めいほう高原音楽祭」などの行祭事・イベントが中止となった。また、震災の影響により団体客が減少した「平成記念公園日本昭和村」や、「花フェスタ記念公園」などでも減少した。一方で、前年は雨の影響で減少した「美濃和紙あかりアート展」では天気に恵まれ増加した。また前年９月のオープン以来好調な「道の駅可児ッテ」でも大幅に増加した。

④東濃圏域

・観光入込客数は８００万８千人で、このうち、日帰り客数は７６０万８千人、宿泊客数は４０万人であった。行祭事・イベント入込客数（延べ人数）は２２０万９千人であった。

・観光地点別、行祭事・イベント別の入込客数についてみると、改修工事の影響により減少した「虎渓山永保寺」や、台風の影響による土砂災害で主要道路が通行止めとなった「奥矢作湖」で減少した。一方、９～１０月に『国際陶磁器フェスティバル美濃』が開催されたことにより「セラミックパークＭＩＮＯ」、「現代陶芸美術館」で増加した。また、前年に引き続き観光地点毎の入込客数県内トップとなった「土岐プレミアム・アウトレット」がＰＲ効果により増加したほか、７月に「恵那銀の森」がオープンし純増した。

⑤飛騨圏域

・観光入込客数は４８２万９千人で、このうち、日帰り客数は２４６万８千人、宿泊客数は２３６万２千人であった。行祭事・イベント入込客数（延べ人数）は７

１万９千人であった。

・観光地点別、行祭事・イベント別の入込客数についてみると、東日本大震災の影響により「古川祭」が中止となったほか、「高山地域」や「白川郷合掌造り集落」など外国人観光客も多い主要観光地点において減少した。一方で、「下呂温泉」は国内での誘客キャンペーン等が奏功し前年並みとなった。

（６）観光消費額

平成２３年の観光消費額の総額は２，３７２億３１百万円で、うち日帰り客分は１，２４０億６４百万円、宿泊客分は１，１３１億６７百万円であった。

また、１人当たりの平均消費額は、日帰り客は３，９１４円、宿泊客は２６，９７２円であった。

（７）経済波及効果（推計）

平成２３年の生産誘発額は３，６２２億６１百万円、就業誘発効果は３４，７８０人となった。

２ 本県の観光振興施策の方向性

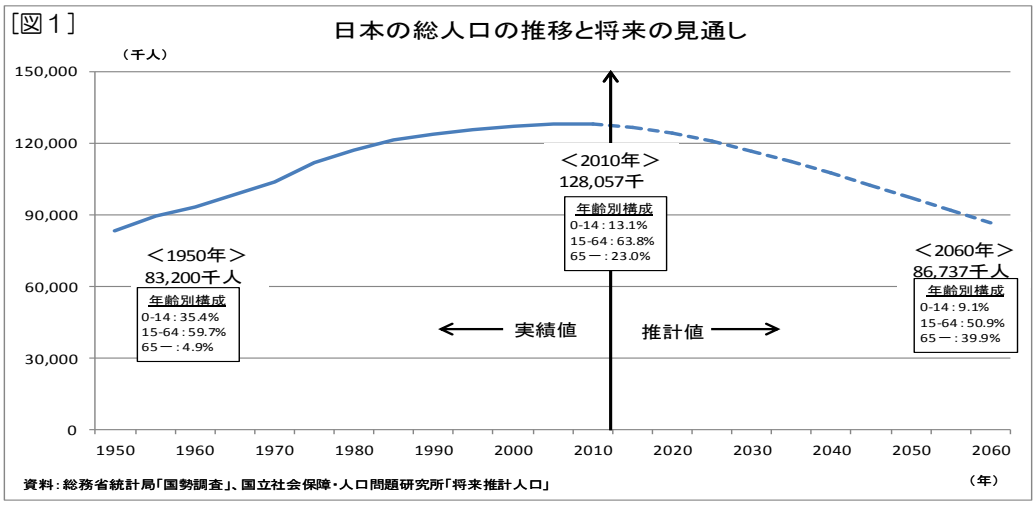
（１）本県の観光を取り巻く環境から見た課題

○人口減少社会の到来

日本の総人口は今後減少傾向で推移し、２０１０年国勢調査による１億２，８０６万人から、５０年後の２０６０年には４，１３２万人減少し８，６７４万人になると推計されており、国内の旅行需要全体が縮小する恐れがある。[図１]

このように、人口減少社会が到来し国内市場が縮小する中、観光消費額を維持・拡大するためには、新たな観光地づくりや観光資源の魅力向上を通して、県内での滞在時間の増加を図ることが必要である。

[図１]



○交通インフラの更なる充実

２０２７年のリニア中央新幹線開業をはじめ、今後、鉄道・道路など交通ネットワークが充実していく中で、本県へのアクセス性・回遊性の更なる向上が期待される。[図２]

成熟した国内市場において旅先として選んでもらえるよう、交通インフラの充実によるアクセス性・回遊性の向上を効果的に活用しながら、岐阜県への観光の動機付け強化を図ることが必要である。

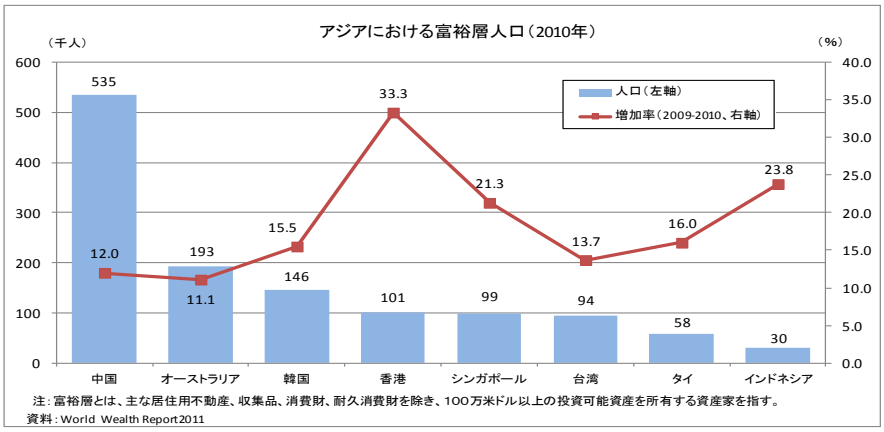
［図２］

○アジア諸国における富裕層の拡大

アジア諸国における富裕層人口の増加率を見ると、香港で 33.3%、インドネシアで 23.8%、シンガポールで 21.3%と特に高く、その他の国においてもいずれも 10%を超えており、アジア諸国において富裕層が急速に拡大していることがわかる。［図３］

本県の観光客の底上げのため、これらの旅行需要の拡大が期待される国や地域をメインターゲットとした、外国人観光客の新規開拓を図ることが必要である。

［図３］



（２）本県の観光動向から見た課題

○宿泊滞在型観光への誘導

平成２３年の観光入込客数を日帰り・宿泊別にみると、日帰り客が 88.3%、宿泊客が 11.7%と日帰り客が圧倒的に多い。観光消費額増加のためにも、いかに宿泊客を増加させるかが課題であり、本県の宿泊滞在型観光の魅力発信、旅行商品の造成促進を行う必要がある。

○愛知県からの宿泊誘導

平成２３年の観光入込客数を居住地別に見ると、県外客のうち 64.1%が東海地方（愛知県、静岡県、三重県）からの観光客である。また、宿泊旅行者を居住地別に見ると（じゃらんリサーチセンター「じゃらん宿泊旅行調査 2012 年」)、愛知県が 21.0%と最も多く、次いで大阪府、東京都となっている。

従って大都市圏をメインターゲットとする中、とりわけ本県への宿泊観光客数が最も多い愛知県からの効果的な宿泊誘導が、宿泊客増加対策の鍵となる。

○５０歳以上の観光客を意識した誘客

平成２３年の観光入込客数を年齢別に見ると、５０歳以上が全体の 52.2%を占めており、この年齢層を意識した観光の動機付け強化が今後の課題である。

○自動車利用者を意識した誘客

利用交通機関別に見ると、自家用車が最も多く全体の 77.4%を占めているため、高速道路など交通ネットワークが充実していく中、アクセス性・回遊性を活かした旅行商品の造成促進や誘客キャンペーンなどが必要である。また、自家用車で来られない観光客の獲得に向け、公共交通機関を活用した旅行商品の造成促進も必要である。

2　「観光王国飛騨・美濃」に向けて実施した主な取組
（６つのプロジェクト別）

1　岐阜の宝もの認定プロジェクト

■岐阜の宝もの認定事業の展開

飛騨・美濃じまん運動を具体的に推進するため、県民一人ひとりが考えるふるさとのじまんを、全国に通用する観光資源として磨きをかけ、「岐阜の宝もの」として情報発信する岐阜の宝もの認定事業に取り組んでいる。

観光資源の掘り起こしを県民参加で進めるため、一人ひとりが感じる岐阜県のじまんを過去２回にわたって募集し、延べ１，８１１件の応募をいただいた。寄せられた多くの“じまん”は、県内５地域での議論や、まちづくりやマーケティングなどの専門家による審査を経て、今後の岐阜県観光の振興につながる地域資源として、これまでに２回の選定を行い、４４件の「じまんの原石」が掘り起こされた。

さらにその中から、今後の魅力向上に向けた取組によっては全国に通用する観光資源になることが期待できる「岐阜の宝もの」として、平成２０年度に「小坂の滝めぐり」を、平成２１年度に「乗鞍山麓五色ヶ原の森」「東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋」を認定、それに次ぐ「明日の宝もの」として、平成２０年度に「中山道」「川原町界隈」「郡上鮎」「八百津のおやつ」を、平成２１年度に「美濃白川四季彩街道」「天生県立自然公園と三湿原回廊」を認定し、魅力向上の取組を支援したほか、観光キャンペーンなどでＰＲしたことで多くの人が訪れるようになっている。

平成２２年度には、過去２回の募集で寄せられた多くのじまんを、飛騨・美濃じまん地域会議において再検証し、その後の取組により魅力が向上した１１件と、新たに地域会議によって掘りおこされた８件の計１９件の新たな「じまんの原石候補」が推薦され、「岐阜の宝もの」認定委員会の審査を経て、１２件の新たな「じまんの原石」が選定された。

そして平成２３年度には、これまでに選ばれた「じまんの原石」「明日の宝もの」の中から、「岐阜の宝もの候補」として地域会議から推薦のあった１２件について、選定後の魅力向上（ブラッシュアップ）の取組状況などを現地調査し、その結果を基に「岐阜の宝もの」認定委員会の審査を経て、１０月１５日（土）、じゅうろくプラザホール（岐阜市）で開催した「岐阜旅ＳＴＹＬＥ２０１１　第５回飛騨・美濃じまんミーティング」において、「天生県立自然公園と三湿原回廊」を「岐阜の宝もの」、「岩村城跡と岩村城下町」と「中山道と伏見宿、太田宿、御嶽宿、鵜沼宿」を「明日の宝もの」に認定した。

［平成２３年度「岐阜の宝もの」、「明日の宝もの」認定の流れ］

①飛騨・美濃じまん地域会議から「岐阜の宝もの候補」として１２件を推薦（６～８月）

②「岐阜の宝もの」認定専門委員による現地調査（６月～９月）

③「岐阜の宝もの」認定委員会を開催し、「岐阜の宝もの」１件、「明日の宝もの」２件の認定案を決定（９月）

④「岐阜旅ＳＴＹＬＥ２０１１　第５回飛騨・美濃じまんミーティング」において、「岐阜の宝もの」「明日の宝もの」を認定・発表（１０月）

【参考：岐阜の宝もの】

〔平成２３年１０月認定：１件〕

天生県立自然公園と三湿原回廊

〔平成２２年２月認定：２件〕

乗鞍山麓五色ヶ原の森、東濃の地歌舞伎と芝居小屋

〔平成２０年８月認定：１件〕

小坂の滝めぐり

【参考：明日の宝もの】

〔平成２３年１０月認定：２件〕

岩村城跡と岩村城下町、中山道と太田宿・伏見宿・御嶽宿・鵜沼宿

明日の宝もの「岩村城跡と岩村城下町」

〔平成２２年２月認定：２件〕

美濃白川四季彩街道、天生県立自然公園と三湿原回廊

〔平成２０年８月認定：４件〕

川原町界隈、郡上鮎、八百津のおやつ、中山道（馬籠宿、落合宿、中津川宿、大井宿、大湫宿、細久手宿、赤坂宿）

【参考：じまんの原石】

〔平成２３年２月選定：１２件〕

岐阜城パノラマ夜景（岐阜市）、名水わさび（大垣市）、中山道・美濃路の追分「垂井宿」（垂井町）、池田山（池田町）、長良川鉄道（郡上市、美濃市、関市、富加町、美濃加茂市）、飛騨美濃せせらぎ街道（高山市、郡上市）、こころのふるさと虎渓山（多治見市）、清流付知峡で自然浴（中津川市）、桜堂薬師（瑞浪市）、笠置山クライミングエリア（恵那市）、串原の布ぞうり（恵那市）、明知鉄道（恵那市、中津川市）

〔平成２１年８月選定：１７件〕

養老鉄道（大垣市、海津市、養老町、神戸町、揖斐川町、池田町）、刃物ミュージアム回廊（関市）、笠原のタイル（多治見市）、美濃焼窯場めぐり（多治見市、土岐市）、羽島市歴史民俗資料館・羽島市映画資料館（羽島市）、中山道４宿（岐阜市、各務原市、瑞穂市）、中山道と太田宿、御嶽宿、伏見宿（美濃加茂市、御嵩町、可児市、坂祝町）、東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋（瑞穂市、恵那市、中津川市）、東山寺町と文化財めぐり（高山市）、乗鞍山麓五色ヶ原の森（高山市）、天生県立自然公園（飛騨市）、まちの名物つるむらさきうどん（関市）、山岡細寒天及び恵那山麓寒天豚（恵那市）、大垣の湧水・地下水（大垣市）、住吉燈台・船町港・赤坂港（大垣市）、水まんじゅう（大垣市）、水屋群などの風景と輪中文化（大垣市）

〔平成２０年３月選定：２７件〕

川原町界隈（岐阜市）、美濃竹鼻まつり・ふじまつり（羽島市）、各務原キムチで都市おこし（各務原市）、伊自良連柿・富有柿・おふくろ柿（山県市、瑞穂市、本巣市）、木曽川凧揚げ大会と木曽川エリア（笠松町、岐南町）、べーめん（海津市）、谷汲門前町（揖斐川町）、中山道赤坂宿・木枡（大垣市）、「おちょぼさん」門前町（海津市）、徳山ダム（揖斐川町）、薬草（揖斐川町）、郡上鮎（郡上市）、食品サンプル（郡上市）、神と仏の里いとしろ（郡上市）、八百津のおやつ（八百津町）、四季彩街道（白川町）、美濃焼と日本酒の融合「美濃陶酔」（多治見市）、土岐市の窯元めぐり（土岐市）、中津川の栗きんとん（中津川市）、岩村城跡と岩村城下町・温故知新 大正１００年への誘い（恵那市）、馬籠宿・中山道（中津川市、恵那市、瑞浪市）、ふるさと体験飛騨高山（高山市）、棚田と板倉の風景と山里文化（飛騨市）、三湿原回廊（飛騨市）、鶏ちゃん（下呂市）、小坂の滝めぐり（下呂市）、龍の瞳（下呂市）

■地域の主体的なブラッシュアップの取組への財政支援

「飛騨・美濃じまん運動」の推進による「観光王国飛騨・美濃」の実現を図るため、地域が主体的に行う「じまんの原石等」のブラッシュアップ事業及び岐阜県を代表する観光資源の強化・再生事業のうち、必要と認める経費についての支援を行った。

○平成２３年度補助金交付団体　１３団体

■地域ブラッシュアップ支援チームの派遣による人的支援

岐阜の宝もの、明日の宝もの及びじまんの原石のブランド構築や、それらを活用したまちづくりなど、地域が主体となって行う宝もの等のブラッシュアップに対する取組を支援するため、団体等の依頼に応じ、岐阜の宝もの認定委員会専門委員、飛騨・美濃じまんメディア戦略検討委員会委員をはじめとする有識者を派遣した。

○平成２３年度派遣実績　１団体

■岐阜の宝もの等ブラッシュアップ観光交流推進事業

○「東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋」を活用した滞在型観光地づくり事業

［実施期間］　平成２３年４月１日～平成２４年３月３１日

岐阜の宝ものに認定された「東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋」が抱える課題や、さらなる魅力向上を図りながら、東濃圏域の観光資源相互の連携強化による地域情報の発信や、観光ルートの開発などによる滞在型観光地づくりに向けた取組を行った。

①情報発信の拠点施設の設置・運営

・岐阜自慢ジカブキプロジェクト事務局　中津川市にぎわいプラザ６階

②体験プログラムの開発・改良・実施

・平成２３年５月１５日～１１月１６日　地歌舞伎鑑賞講座
・平成２３年７月１６日～平成２４年３月２２日　地歌舞伎役者に変身体験
・平成２３年９月４日～平成２４年３月２２日
　芝居小屋舞台のうらおもて案内　など

③周辺観光地と連携した滞在型観光地づくりモデルツアーの実施
・平成２４年３月２１日～２５日　モニターツアー
・平成２３年９月４日～１２月１１日　旅行エージェント向け現地説明会の実施
・地歌舞伎オリジナル弁当、焼き菓子の開発・販売　など

④イベント参加を通じた情報発信の実施
・平成２３年４月１７日～９月２５日　企画展「中津川の地歌舞伎二百五十年」
・平成２３年７月１５～１６日　「ぎふを旅して日本を元気に！」キャンペーン
・平成２３年９月１６日～１９日　「２０１１演劇 CAMP in 中津川」
・平成２３年１０月７日～１０日　シンガポール遠征公演　など

○歌舞伎衣装魅力発掘・発信事業
［実施期間］　平成２３年４月１日～９月３０日
　県内の歌舞伎衣装の現状を調査・記録するとともに、その過程で発掘された魅力を情報発信することで、岐阜の宝ものに認定された「東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋」を、県を代表する観光資源へと育成するための取組を行った。

①調査・記録した歌舞伎衣装の調査記録集の制作

②劇場型木造芝居小屋を活用した歌舞伎衣装展覧会の開催
・平成２３年７月３日～２０日、９月３日～１８日
　ぎふ地歌舞伎衣装展「いのちつなぐ」
・平成２３年９月１０日～１１日　体験型ワークショップ
・平成２３年９月２４日　ファッションショー「sakurahime コレクション」

③歌舞伎衣装を継承・活用する技術の記録・情報発信

④地歌舞伎情報の発信

○天生県立自然公園と三湿原回廊ブラッシュアップ事業

［実施期間］　平成２３年４月１日～平成２４年３月３１日

飛騨市と白川村に広がる豊かな森「天生県立自然公園」、ミズバショウの群生で有名な「池ヶ原湿原」、巨木が生い茂る秘境「深洞湿原」を活用し、自然を大切に守りながら周辺の観光資源をつないだ滞在型観光地づくりに向けた取組を行った。

①飛騨市・白川村エリアの滞在型観光地づくりに関する実施計画の策定

②飛騨市・白川村の森での「公認ガイド制度」の導入検討

③天生の森サポーター倶楽部の運営

④天生県立自然公園での外来植物等の撤去、池ヶ原湿原でのヨシ伐採、天生県立自然公園内での携帯トイレ使用ブースの試行

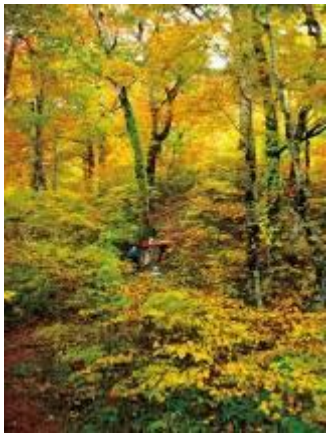
⑤体験プログラムやモニターツアーの実施

（体験プログラム４回、モニターツアー４回）

⑥天生峠経由シャトルバス運行実験運行

（７月２３日～８月２８日、１０月１日～１０月３１日）

⑦ホームページやテレビ、新聞、情報誌などを活用した情報発信



■「小坂の滝ウェルネス・ツーリズム」ガイドの養成

［実施期間］　平成２３年４月１日～平成２４年３月３１日

岐阜の宝もの「小坂の滝めぐり」を、日本有数のウェルネス・ツーリズムの観光資源に育成していくため、「小坂の滝ウェルネス・ツーリズム」ガイドを雇用・育成し、ガイドのみならず小坂の滝を核とした地域づくりのプランニングやマネージメントができる人材を育成することで、年間を通した事業展開を行う体制づくりを行った。

①滝ガイドの養成（ガイド３名を雇用、滝ガイドツアーに従事）

②体験プログラムやオフシーズンの体験メニューの試行

（体験プログラム５回、体験メニュー２回）

③「小坂の滝ウェルネス・ツーリズム」観光プログラムの実施（３回）

④ガイドブック「小坂の宝さがし」の制作

⑤ホームページや各種イベントを活用したＰＲ活動の実施

■飛騨・美濃観光大使を活用した情報発信

震災の影響で大きなダメージを受けている東日本を応援し、日本全体の活性化に向けたきっかけを創るとともに、宿泊客が減少している県内観光地の宿泊施設等を支援するため、４月から展開した『東日本応援・県内観光地宿泊促進キャンペーン　心と心をつなぐのは今「ぎふを旅して日本を元気に！キャンペーン』において、飛騨・美濃観光大使からキャンペーン用に提供を受けた応援メッセージを、オープニングイベント、キャンペーン用のホームページ、ＦＣ岐阜のホームゲームや岐阜駅前の大型ビジョンなどで放映し、キャンペーンをＰＲした。

飛騨・美濃観光大使「ＭＥＧＡＲＹＵ」からの応援メッセージ映像

■中山道統一デザイン案内標識設置の促進

「明日の宝もの」に認定された、「中山道」をＰＲし、わかりやすく案内するため、市町村と連携しながら、中山道統一デザイン案内標識の設置をこれまでに県・市町合わせて１１３基設置した。

・統一デザイン案内標識を平成２３年には御嵩町で２基設置した。

2　飛騨・美濃じまん観光誘客プロジェクト

■モア・トゥリーズと連携した「都市と森とをつなぐ交流モデル」の構築

植林や間伐などの森づくりの活動を通じて、日本や世界の森を再生させることを目的とする森林保全団体「more trees（代表理事：坂本龍一）と岐阜県との間で、「岐阜の宝もの」に代表される観光資源等を活用した「都市と森とをつなぐ交流モデル」の構築に向け、包括的事業連携協定を、平成２３年３月２３日（金）に締結した。

モア・トゥリーズの協力のもと、７月３０日・３１日に六本木ヒルズでおいて「森を考えるワークショップ」を開催し、東濃桧を活用した「ぎふウェルネス・ツーリズム」のＰＲを実施した。

また、ワークショップ参加の家族を対象に、「清流の国」岐阜県の自然の魅力と、新たな観光資源「岐阜の宝もの」を組み合わせたモニターツアー「森のふるさと、水の源流を訪ねる 親子体験モニターツアー」を実施し、今後の旅行商品造成の参考とするとともに、イメージアップを図った。

■東日本応援型チャリティキャンペーン『「ぎふを旅して日本を元気に！」キャンペーン』の展開

東日本へのチャリティと併せた岐阜県ならではの観光需要喚起策として、『心と心をつなぐのは今「ぎふを旅して日本を元気に！」キャンペーン』を官民連携により実施した（平成２３年４月２３日～平成２４年３月１１日）。

【第１弾】　ＧＷ向け緊急キャンペーン
【第２弾】　キャンペーンの本格展開（ＧＷ後～夏休み）
【第３弾】　夏休み向けキャンペーン
【第４弾】　秋の行楽シーズン向けキャンペーン
【第５弾】　冬の閑散期対策

また、キャンペーンを効果的に発信するため、様々なＰＲキャラバン・イベントを実施した。

○毎週日本のどこかでキャラバン隊によるＰＲ展開
　県内各地で行われる主要イベントや、県内外の商業施設など集客の多い地点においてキャンペーンをＰＲ。

○大都市圏におけるプロモーション活動の展開
　東京、名古屋、大阪において、ぎふを味わおうキャンペーンを展開し、岐阜の魅力とチャリティキャンペーンをＰＲ。

○県民向けＰＲイベントの開催
　主に県民を対象に岐阜の魅力を発信する「岐阜 旅ＳＴＹＬＥ２０１１」を開催し、チャリティキャンペーンをＰＲ。

■エコツーリズムの促進

県内の豊かな自然を保全しつつ、自然観光資源として活用するため、エコツアーガイドの育成や都市部住民を対象としたモデル的なエコツアーの実施、エコツーリズム団体による情報交換会の開催など、エコツーリズムの促進に取り組んだ。

○エコツアーガイドの育成　１０名

○モデル的なエコツーリズムの実施

・「初夏の天生県立自然公園で山野草を楽しむ」ツアー　６月１９日（日帰り）

・「真っ盛りの高山植物を楽しみ、そして生物多様性を考える ～乗鞍お花畑と宇津江四十八滝を巡る～」ツアー　７月２４・２５日（１泊２日）

・「薬草から自然との付き合い方を考える ～伊吹山お花畑を巡る～」ツアー　８月２７日（日帰り）

・「巨岩と渓谷、宗祇水から生活の水を考える ～片知渓谷と郡上八幡～」ツアー　９月１１日（日帰り）

・「水のきれいな付知峡と中山道・馬篭宿で先人の自然感に触れる ～付知峡と馬篭宿～」ツアー　９月２４日（日帰り）

・「秘境・大白川 紅葉のブナ林を歩く ～大白川と白川郷～」ツアー　１０月２２・２３日（１泊２日）

○エコツーリズム情報交換会

・開催日　１１月２５日

・場　所　高山グリーンホテル（高山市）

・参加者　エコツーリズム　１４団体

■グリーン・ツーリズムの推進

豊かな自然や伝統文化とその恵みに育まれた農林漁業といった地域資源を生かし、岐阜県ならではのグリーン・ツーリズムを推進するため、関係市町村及び関係団体と連携して「受入体制の充実」と「情報発信力の強化」に取り組んだ。

○受入体制の充実

・ぎふグリーン・ツーリズムネットワーク高山大会の開催

県内のグリーン・ツーリズム実践者が一堂に集い、地域課題の共有とその解決策について検討を行うとともに相互の連携と交流を深めた。（１月／参加者１３１名）。

・岐阜県農林漁業体験施設の登録

都市住民等に安全・安心な農林漁業体験を提供し、ぎふグリーン・ツーリズムの受け皿の核となる施設の登録を推進した（新たに１１施設を登録し計８１施設）。

・グリーン・ツーリズムインストラクター等体験指導者の育成

緊急雇用創出事業を活用し、グリーン・ツーリズムの体験指導者となる人材を育成した（５団体）。

○情報発信の強化

・ メールマガジン「ぎふの田舎へいこう！」通信の充実

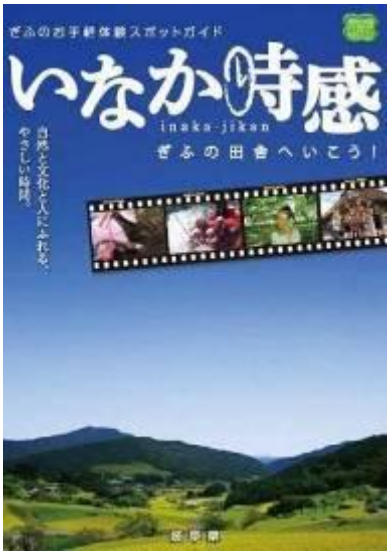
企業や都市住民に対して岐阜県の田舎体験情報を提供するメールマガジンを毎月１回発行した（約１，４００部）。

・「ぎふの田舎へいこう！」キャンペーン２０１１の実施
登録施設との協働により、施設利用者を対象に抽選で県産品などをプレゼントする誘客キャンペーンを実施した（７～９月）。

・ぎふの田舎のとっておきツアー５０事業の実施
緊急雇用創出事業を活用し、グリーン・ツーリズム体験プログラムと既存の観光資源を組み合わせた田舎体験ツアーを年間５０回催行し、名古屋を中心に約１，７００名を誘客するとともに、こうしたツアーのあり方を検証した。

・ぎふの田舎のお手軽体験スポット調査事業の実施
緊急雇用創出事業を活用し、宿泊を伴わず気軽に参加できる県内の日帰り体験施設をデータベース化するとともに、誘客につなげるためのガイドブック『いなか時感（じかん）』を作成した。

＜ぎふの田舎へいこう！キャンペーン 2011＞



＜ぎふのお手軽体験スポットガイド『いなか時感』＞

■第１回高橋尚子杯ぎふ清流マラソンの開催

シドニー五輪マラソン金メダリストの高橋尚子さんが大会長を務める「第１回高橋尚子杯ぎふ清流マラソン」を、東日本大震災による被災者へのチャリティ大会として開催し、国内外の有名選手や全国からの一般ランナー約１万人、ボランティア約２千人が参加したほか、約１０万人の観衆がメイン会場・沿道に繰り出した。大会では、本県の観光・食・モノを一体的にＰＲするイベントなどを併せて開催し、岐阜の魅力を全国に発信した。

○開催日：平成２３年５月１５日（日）
○参加者：９，０２５人（ハーフマラソン：７，８９８人、３ｋｍ：１，１２７人）
○内　容：
・岐阜県のＢ級グルメや県産品販売などの「楽市・楽座」を設置するとともに、高橋尚子さんのランニングクリニック、サンプラザ中野くんのライブなど、多彩なステ

ージイベントを実施。

・大会参加料の一部に会場での募金を加えた大会義援金総額１，０００万円を、岩手、宮城、福島の３県に贈呈。

大勢の人で賑わうｽﾃｰｼﾞｲﾍﾞﾝﾄ

東日本復興支援ﾁｬﾘﾃｨｰﾌﾞｰｽ

金華橋を埋め尽くすランナー

■小学生の農山漁村での長期宿泊体験の受入推進

学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、規範意識などを育み、力強い子どもの成長を支える教育活動として、小学校における農山漁村での長期宿泊体験活動を進める国の「農山漁村交流プロジェクト」の受入体制づくりを推進した。

〇地域受入協議会の活動支援

・一般社団法人ふるさと体験飛騨高山（高山市／平成１９年３月設立）

・郡上・田舎の学校（郡上市／平成２０年１月設立）

・東白川長期宿泊体験協議会（東白川村／平成２１年４月設立）

・白川郷まるごと体験協議会（白川村／平成２２年３月設立）

〇新たに１地域で受入協議会が設立

・板取スイス村体験協議会（関市／平成２３年５月設立）

■「岐阜フィルムコミッション事業」の推進

岐阜県の新たな地域資源の活用や観光交流につながるよう、映画やテレビをはじめとする映像作品を支援する「フィルムコミッション事業」を推進。平成２３年度には２０作品の誘致・支援を行った。

＜支援した主な作品＞

〇映画『聯合艦隊司令長官　山本五十六』（平成２３年１２月２３日公開）

監　督：成島出
出　演：役所広司、柄本明、柳葉敏郎　他
撮影地：岐阜県岐阜総合庁舎
撮影日：平成２３年７月２日・３日

『聯合艦隊司令長官　山本五十六』撮影風景

◯映画『キツツキと雨』（平成２４年２月１１日公開）
監　督：沖田修一
出　演：役所広司、小栗旬　他
撮影地：中津川市、恵那市、瑞浪市、白川町、東白川村
撮影日：平成２３年４月～５月

＜事業・ロケ地ＰＲ活動＞
◯岐阜フィルムコミッション事業ＰＲ
・岐阜フィルムコミッション展開催（平成２４年２月２２日～３月５日、ハートフルスクエアーＧ）
・「岐阜フィルムコミッション　ロケ地マップ」作成
◯映画『キツツキと雨』ロケ地ＰＲ
・市町村リレー展の開催（平成２４年２月７日～３月１６日、ロケ地市町村にて衣装、小道具等の展示）
・特設ホームページ「『キツツキと雨』ぎふ応援サイト」の開設

『キツツキと雨』市町村リレー展風景

■朝市・直売所の魅力発信の強化

県内の朝市・直売所の詳細な情報を収集し、朝市・直売所を効果的にＰＲするとともに、朝市・直売所と消費者との交流を促進するなど、朝市・直売所の魅力を広く情報発信した。

○ＰＲ情報誌「ぎふ朝とれ　Asaichi　Trekking」の発行

・県内２０４箇所の朝市・直売所の開設場所や販売品目、セールスポイント等の詳細な情報や、朝市・直売所の地域色豊かな加工食品や飲食メニュー等の特集を満載したＰＲ情報誌を５万部作成し、朝市・直売所や図書館等に設置。

○朝市・直売所バスツアーの開催

・朝市・直売所での買い物や地域の食材で作った昼食、農産物の収穫体験直売所の運営者や生産者との交流など様々な催しを盛り込んだバスツアーを５回開催。

第１回（東濃編）　平成２３年　９月１５日　中津川グリーンセンター
第２回（中濃編１）平成２３年１０月２６日　ふる里農園美の関
第３回（岐阜編）　平成２３年１１月１０日　てんこもり農産物直売所
第４回（西濃編）　平成２３年１１月１８日　ﾌｧｰﾏｰｽﾞﾏｰｹｯﾄ大野店
第５回（中濃編２）平成２４年　３月　９日　とれったひろば関店

■スマートフォンを活用した新たな観光スタイルの展開

岐阜県版 iPhone アプリ開発事業において、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会のキャラクターであるミナモを活用したスマートフォンアプリ「ミナモアプリ」を開発した。行政によるアプリの公開や、国体におけるスマートフォンアプリの活用は全国初として、各方面から大きな反響を得ており、岐阜県・ソフトピアジャパンの知名度向上とともに、両大会の効果的なＰＲやおもてなしにつながった。

＜ミナモアプリ一覧＞

ミナモカメラ
カメラを活用し、ミナモと記念撮影ができるアプリ。GPS機能を活用しており、「その会場」付近に行かないとその競技のミナモと写真が撮れない仕組み

絵合せミナモ
神経衰弱の要領で、様々なミナモの絵柄を合わせていくゲームアプリ

ミナモナビ
両大会の競技や会場周辺の観光情報、地図、特産品情報、レストラン、最寄駅の時刻表等、様々な情報を紹介するアプリ

ミナモクイズ
各ステージで両大会に関するクイズに挑戦し、正解するとパネルゲームで遊ぶことができるゲームアプリ

3　飛騨・美濃じまん海外戦略プロジェクト

■海外誘客戦略推進事業、国際観光対策事業の推進

海外から岐阜県を訪れる訪日旅行を促進するため、アセアン諸国（シンガポール、マレーシア、タイ等）や東アジア諸国（中国、台湾等）を重要市場と位置付け、国の「ビジット・ジャパン」（ＶＪ）事業や近隣県・関係機関との連携のもと、各種誘客事業を展開した。

○海外メディア・旅行エージェント等の招へい、視察旅行へのアテンド

件数：６５件

国　：シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、韓国、中国、香港、台湾、インド、アメリカ、ポーランド

○岐阜県観光セミナー等の開催

シンガポール（７月、１０月、２月）

中国（上海、北京）（８月）

○国際観光展への出展、海外での関係機関へのセールス活動

シンガポール（８月、２月）

マレーシア（８月、３月）

タイ（８月、２月）

インドネシア（１０月）

中国（６月、７月、２月）

台湾（１１月、１２月、２月）

シンガポールの国際旅行博覧会でのＰＲ

シンガポールの飲食店での観光・地酒ＰＲ

オーチャード通り（シンガポール高島屋前）での岐阜県ＰＲ

■観光・食・モノを一体化した、顔の見えるプロモーションの展開

平成２３年度は、シンガポール・タイに知事が赴き、現地レストラン、流通業者、メディア、観光関係者等に対して観光・食・モノを一体化したＰＲ事業を行ったほか、各分野の重要人物に直接アプローチするなど積極的に県をプロモーションした。

【シンガポール・タイ】

○期　間：平成２４年２月２０日（月）～２３日（木）

○内　容：＜シンガポール＞

・飛騨牛フェア 開催（「パン・パシフィック・シンガポール・ホテル」）

・在シンガポール日本国大使公邸夕食会での県農産物、地場産品ＰＲ

・県産品フェア 開催（「ａｔｏｍｉ」）

・観光・地酒プロモーション 開催（「山水」）

・県地酒フェア 開催（ボート・キー地区）

・現地大手メディア、旅行会社訪問　等

＜タイ＞

・現地高級百貨店訪問　等

飛騨牛フェア（シンガポール）

■インターネットを活用した海外販路開拓

県内中小企業の販路拡大を図るため、楽天(株)と締結（平成２１年１１月９日）した包括連携協定に基づき、インターネットを活用した海外の市場開拓や売り上げ拡大に向けた取組を支援した。また、海外販売に取り組む店舗の裾野を拡げるため、初心者向け、自社店舗向けの勉強会等も開催した。

【Ｗｅｂ物産展等の開催】

○英語・中国語圏向け物産観光展「岐阜県海外フェア２０１１」の開催

・開催期間：平成２３年１１月２４日～１２月２２日

・ページ作成言語：英語、中国語、日本語

・参加店舗：２７店舗（物産）

・販売流通総額：約２，５５１千円

【海外販売サポートデスクの設置】

○緊急雇用創出基金（人材育成）を活用し、無料での翻訳支援サービスや無料相談などのサポートを実施

【海外通販セミナー】

○「海外通販セミナー」の開催（共催：郵便事業㈱）

・開催日：平成２３年１０月１３日

・会　場：じゅうろくプラザ

・参加者：６６名

○「海外販売　基礎力 UP！セミナー」及び「ワークショップ」（共催：WIP ジャパン）

・開催日：平成２４年１月１８日（セミナー）、２月２２日（ワークショップ）

・会　場：羽島市立中央公民館（セミナー）、ふれあい福寿会館（ワークショップ）

・参加者：４８名（セミナー）、２０名（ワークショップ）

■海外のマーケティング拠点づくり・海外販路のパートナーづくり支援

アジアや欧州などの海外市場に向けて、高品質な岐阜ブランドを前面に出し、海外のマーケティング拠点づくりや販路拡大に取り組んだ。

○平成２３年度の取組

【マーケティング拠点づくり】

シンガポール、上海、フランス等の和雑貨ショップや商社などの海外販路パートナーを開拓し、地場産品のマーケティング等を実施した。

・シンガポール

現地のセレクトショップのオーナーを招へいして商材を発掘し、県産品フェアを２回開催。

・上海（緊急雇用）

現地に販路を有する県内商社と連携し、セレクトショップでの県産品の展示販売や見本市への出展を実施。

・パリ（緊急雇用）

和雑貨の海外への輸出を行う県内企業と連携し、現地の和食レストランやギャラリーでの県産品の展示販売やインテリア見本市「メゾン・エ・オブジェ」等への出展を行った。

ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙのｾﾚｸﾄｼｮｯﾌﾟ

パリの展示会

【パートナーづくり】

シンガポールに拠点を有する酒類卸商社を招へいし、県内蔵元とのマッチングを実施。

酒類卸商社を招へいし蔵元を訪問

■アセアン地域への農産物等の輸出促進

県産農産物の販売促進とブランド化を推進するため、岐阜県農林水産物輸出促進協議会（※１）と連携し、アセアン地域をターゲットとして、飛騨牛や富有柿を中心に、レセプション等における情報発信力の高い要人へのＰＲ、百貨店等での販売フェアの開催、バイヤーやレストラン関係者との商談等を行い、新たな販路開拓に取り組んできた。

富有柿は、シンガポール、タイの３ヶ所の百貨店で継続販売されている他、飛騨牛は、新たにシンガポールの１店舗を「飛騨牛海外推奨店」として認定した。

また、新たな輸出品目の開拓として、シンガポール、タイへイチゴの試験輸送を行い、

輸出適性を検討した。

○平成２３年度の輸出実績

柿：輸出量４．９ｔ

販売店舗：香港３店舗、タイ２店舗、シンガポール１店舗

飛騨牛：輸出量１，１０７kg

飛騨牛海外推奨店（※２）：香港４店舗、シンガポール３店舗

推奨店以外の取扱店：香港３店舗、シンガポール１店舗

（※１）岐阜県農林水産物輸出促進協議会とは、県農産物等の輸出促進を目的に平成１６年、県、農業団体、食品産業団体、ジェトロ岐阜等８団体により設置された。

（※２）飛騨牛海外推奨店とは、飛騨牛の銘柄化を進めている飛騨牛銘柄推進協議会が認定する海外で飛騨牛を取り扱う店舗のこと。

4　県産品ブランド力向上プロジェクト

■「飛騨・美濃すぐれもの」認定、販売促進

優良でプレミアムな県産品を「飛騨・美濃すぐれもの」として認定し、県産品の看板商品としてＰＲするとともに、百貨店催事やイベントへの出展など、消費者と直結した販売戦略を展開した。

なお、より岐阜県のブランディングにつなげるため、平成２２年度から審査方法を一次審査（書類審査)、二次審査（現物審査及び申請者によるプレゼンテーション）の２段階選抜方式に見直し、バイヤーなどの各審査員が販売プロモーションを視野に入れた選定を行った。

○「飛騨・美濃すぐれもの」の募集、認定

平成２１年度以前認定商品：１２８点（食品１１５点、非食品１３点）

平成２２年度認定商品：５点（食品４点、非食品１点）

平成２３年度認定商品：９点（食品６点、非食品３点）

○販売、ＰＲ支援

・首都圏のスーパーマーケット等での販売プロモーション実施

・「ぎふを味わおうキャンペーン」などで認定商品と岐阜県観光をセットにしたＰＲ

・岐阜県ポートフォリオ（岐阜県ブランド集）でのＰＲ

・楽天市場ショップへの出品支援

紀ノ国屋で開催した販売プロモーション
「飛騨美濃ウィーク」

■「県産品愛用推進宣言の店」の指定

県産品愛用による地産地消を推進するため、県内産の食材を利用した料理を提供している飲食店や県内の商品を多数揃えている販売店を「県産品愛用推進宣言の店」を指定し、ＨＰ等で広く県民に紹介した。

平成２３年度は新たに２７店舗を指定し、現在２６５店舗（飲食の部：１７８店舗、食

品製造販売の部：１１店舗、販売の部：７６店舗）が「県産品愛用推進宣言の店」として県産品の利用拡大を行っている。

■県産品の料理指定店・販売指定店を拡大促進

飛騨牛、奥美濃古地鶏等の消費拡大のため、料理指定店・販売指定店を拡大。

区分		１７年３月（計画初年度）	２４年３月	増加数
飛騨牛	料理指定店（Ｈ２～）	１２５店舗	１７６店舗	５１店舗
	販売指定店（H元～）	２１２店舗	２１６店舗	４店舗
奥美濃古地鶏	料理指定店（Ｈ６～）	４７店舗	４０店舗	－７店舗
	販売指定店（Ｈ６～）	５５店舗	４６店舗	－９店舗
飛騨けんとん 美濃けんとん	料理指定店（H10～）	１３店舗	２５店舗	１２店舗
	販売指定店（H10～）	５３店舗	４２店舗	－１１店舗
飛騨清流河ふぐ	取扱料理店（H12～）	１０店舗	９店舗	－１店舗

■国内外に発信できる岐阜県ブランドの一翼を担う商品の開発支援

県内モノづくり企業のビジネスモデル改革や国内外に発信できる岐阜県ブランドの商品ラインナップ強化につながる商品開発プロジェクトを募集し、採択されたプロジェクトに対して、デザイン開発支援を行った。

○開発支援を行ったプロジェクト件数：２０件

■都内のセレクトショップと連携した県産品の販売強化

県内モノづくり企業の商品開発力の向上や、消費者直結型のビジネスモデル構築支援、首都圏における販路開拓支援を目的に、都内でセレクトショップを運営するメイド・イン・ジャパン・プロジェクト㈱と締結（平成２２年２月２４日）した連携協力に関する協定に基づき、各種事業を実施した。

○県産品のテストマーケティング（３回）

セレクトショップにおいて県産品のテスト販売を実施し、首都圏の高感度な消費者やバイヤーの厳しい目にさらす機会を提供することで、県内モノづくり企業の商品開発力の向上を図った。

（販売実績）５３社・１４５商品

○県産品常設販売コーナーの設置（通年）

セレクトショップに「岐阜県商品コーナー」を設置し、岐阜県産品のブランド発信を図った。

■インターネットを活用した販路開拓の推進

県内中小企業の販路拡大を図るため、楽天(株)と締結（平成２１年１１月９日）した包

括連携協定に基づき、インターネットを活用した国内外の市場開拓や売り上げ拡大に向けた取組を支援した。

【Ｗｅｂ販路拡大セミナーの開催】

「ぎふネットショップマスターズ倶楽部」会員向け中心のセミナーを開催

○ネットビジネスフェア

・開催日：平成２３年８月３日

・場　所：ソフトピアジャパン

・参加者：７６名

・内　容：楽天市場をはじめオンラインショッピングで数多くの賞を受賞している店舗経営者による講演会の開催

○ネットビジネスＥＸＰＯin 岐阜

・開催日：平成２４年３月１３日

・場　所：ふれあい福寿会館

・参加者：２３８名

・内　容：カリスマネットショップ経営者による基調講演を中心とした６講座３部構成による開催

【Ｗｅｂ物産展等の開催】

○「岐阜県いいもの祭り」の開催

・開催期間：平成２３年７月１５日～８月１７日

・参加店舗：３４店舗

・参加店舗総売上：約８，３３１万円

○「飛騨・美濃うまいもの巡り」の開催

・開催期間；平成２３年１１月１８日～１２月１９日

・参加店舗：３２店舗

・参加店舗総売上：約８，６８０万円

○「鹿児島・岐阜合同物産展」の開催

・開催期間：平成２４年２月１７日～３月１９日

・参加店舗：１９店舗（岐阜県）、１８店舗（鹿児島県）

・参加店舗（岐阜県店舗のみ）総売上：約６，８１８万円

○「岐阜県お友達店長　期間限定セール」

・開催期間：平成２４年２月２８日～３月５日

・参加店舗：２１店舗

■県産品展示・販売事業「これぞ日本！プロジェクト」の展開

岐阜県産品を改めて見つめ直し、まだ注目されていない商品を発掘し、全国へ発信していくことを目的とした事業「これぞ日本！プロジェクト」を展開した。

この事業の集大成として、２００点以上の県産品を展示・販売する「山と水のおくりもの展」を、東京ミッドタウン（東京都港区）にて平成２４年１月に開催し、全国のバイヤーやマスコミ等に対して県産品のＰＲを行った。

■産地・業種別ビジネスモデル改革支援の強化

産地・業種別ビジネスモデル改革の推進のため、平成２３年度はアパレル、陶磁器、紙の三分野を対象にセミナー等を開催した。

○アパレル産地活性化ワークショップ

楽天大学学長を講師に招き、岐阜アパレル産地の経営者などを対象に、消費者が求める商品づくりや売り方に関するセミナーを実施。

・開催日：平成２３年５月２０日、２１日、６月４日、１８日、７月２日

・参加者：１９人

○陶磁器産地活性化セミナー

和雑貨の海外への輸出を行う県内企業の社長を講師に招き、地元陶磁器関連企業の若手経営者を対象に、ヨーロッパにおける陶磁器の販路拡大のための情報提供と意見交換を実施。

・開催日：平成２３年７月１９日

・参加者：２５人

○美濃和紙産地活性化懇談会

美濃和紙ブランドを活かした地域振興をテーマに、内閣官房地域活性化伝道師の木村俊昭氏を講師に招いて、若手手すき和紙職人、関連企業経営者などを対象として、講演会と意見交換を実施。

・開催日：平成２４年１月１８日

・参加者：２４人

■飛騨牛のブランド力向上対策の推進

情報発信力の高い首都圏において、レストランでの飛騨牛フェアや百貨店、大手量販店での飛騨牛販売イベントを開催するとともに、「飛騨牛キャラバン隊」によるキャンペーンを実施した。

○飛騨牛ブランド力向上に向けた取組

・新丸の内ビルディング内レストランでの『岐阜九蔵』発表、飛騨牛パーティー開催（平成２３年５月９日）

・都内レストランにて飛騨牛メニューフェアを開催（平成２３年５月９日～１５日・６店舗、１１月１日～３０日・１１店舗）

・首都圏の量販店１０店舗にてＰＲ販売フェア開催（平成２３年１０月～）

・雑誌とのタイアップによる飲食店シェフ向け売り込みイベントの実施及びＰＲ記事掲載（平成２４年１月５日～６日）

・「飛騨牛ＰＲキャラバン隊」を編成し、都内３箇所にて飛騨牛ＰＲイベントを開催（平成２３年１０月１３日、１１月４日～５日、平成２４年２月１６日～１９日）

・テレビ（３番組）、雑誌（３誌）とのタイアップにより情報発信

■農産物のトップブランドづくりの推進

○かき（柿）

・新ブランド「果宝柿」の定着に向けて、引き続き推進し、産地に対して、高糖度で外観品質の良い「袋掛け富有柿」の生産に必要な技術の普及に向け、栽培研修会を実施した。

・早生品種から「果宝柿」までを「岐阜柿おすすめ五選」として、都市圏の果物専門店・量販店にて消費宣伝ＰＲ・販売促進イベントを開催し、消費者の認知を高めた。

・試験研究の取組として、かきの硬さに着目し食べ頃に関する調査に取り組み、食べ頃指標を作成した。

○くり

・くり振興策の一環として、岐阜県生産者大会を開催し、「ぽろたん」普及の現状と今後の取組、「ぽろたん」の特性と栽培上の注意点、「ぽろたん」レシピの紹介、「ぽろたん」試食会を実施しました。

・「ぽろたん」の認知度向上に向け、主産地の東美濃ぽろたん研究会により、県農業フェスティバルや地域のイベントにて、「ぽろたん」焼き栗の試食による消費宣伝ＰＲを行った。

■６次産業化による県産農産物を活用した新商品開発の推進

農産物の付加価値を高め儲かる農業を実現するため、農業者自らによる加工販売の取組や農業者と商工業者が連携して加工・販売に取り組む農商工連携など「農業の６次産業化」を促進。

・６次産業化を促進するための農業者や食品関連事業者を対象とした「６次産業化セミナー」を開催。（平成２３年４月６日岐阜市）

・農業者と県内及び中京圏の食品関連事業者とのマッチング機会の創出及び業務用需要の拡大を図るため、外食産業を中心とした事業者のバイヤー等を対象に産地見学会、商談会を開催。

（ひだみの農産物・加工品産地見学会）

第１回／飛騨地域（平成２３年８月３日）、第２回／可茂地域（平成２３年９月６日）

（ひだみの農産物・加工品商談会）

第１回／岐阜市（平成２３年１１月１７日）、

第２回／名古屋市（平成２４年１月３１日）

・農業者と商工業者とのマッチングを図るため「地産地消を進める需要開拓交流会」を開催。（平成２４年３月２１日美濃市、平成２４年３月２３日揖斐川町）

・商品開発や販売戦略、経営管理等に関する専門的知見や資格を有する人材がアドバイザーとなり、６次産業化に取り組む農林漁業者等が抱える課題に対して助言・支援を行う「６次産業化実践アドバイザー」を派遣。

・６次産業化を目指す認定農業者、農業法人、農村女性グループ等に対して、自ら生産する農産物を利用した加工食品の商品開発に必要な機械等の整備費の一部を助成。

■ぎふクリーン農業をベースとした売れる農産物づくりの推進

ぎふクリーン農業をベースに、安全・安心で付加価値のある売れる農産物づくりを推進し、ぎふクリーン農業生産登録面積は 18,309ha、県内作付面積の約３分の１まで拡大した。

また、農業者組織等がぎふクリーン農業に取り組むのに必要な機械・施設の導入を支援した。

導入例：新規就農者のいちご高設栽培施設、水稲登録規模拡大に必要な機械・施設
　　ほうれんそう、トマトの規模拡大や地球温暖化適応技術導入等

支援件数：９２件　総事業費：720,797 千円　補助金額：186,289 千円

重点分野雇用創出事業を活用し、量販店や直売施設（１６店舗）に「ぎふクリーン農産物販売コーナー」を設置し、店頭でのＰＲイベントの実施（９０回）や産地見学ツアーの開催（２回）、保育園・幼稚園児を対象とした食育活動（２１園）を通じて、ぎふクリーン農産物のＰＲを行った。

ぎふクリーン農産物販売コーナー

また、生産者と実需者を結びつける「マッチング推進員」２名を設置し、新たに県内に進出した量販店に、ぎふクリーン農産物販売コーナーの設置や、食品加工業者のキャベツやタマネギの加工用野菜の需要に対して、営農組織等に作付けを働きかけ新たな産地づくりを推進した。

■県産農産物等のＰＲ、販路拡大

県産農産物の市場を拡大し、農産物出荷額の向上を図るため、農業団体等が行うメディアや消費者へのＰＲ、大都市圏への販路拡大などの取組を支援するとともに、農業者によるレストラン等業務需要者への販路開拓を支援するための商談会等を県が主体となり実施した。

○飛騨美濃農産物大都市キャンペーン開催支援

本県の主要青果物である「ほうれんそう」、「トマト」、「いちご」、「富有柿」などについて、首都圏、大阪圏、中京圏等の市場と連携した販売促進活動の展開の他、新たな販路開拓に向けた商談活動を行った。

【首都圏】

・高級フランス料理店にて飛騨牛メニューを提供、メディア関係者へＰＲ（平成２３年４月２１日）

・新丸の内ビルディング内レストランでの『岐阜九蔵』発表、飛騨牛パーティーにて、レストラン５店舗へ飛騨牛メニューを提供（平成２３年５月９日～１５日）

・レストランシェフを対象とした料理王国「新年シェフ交流会２０１２」にて、飛騨牛を提供しＰＲ（平成２４年１月５日～６日）

【関西圏】

・レストランシェフを対象とした料理王国「新年シェフ交流会２０１２」にて、飛騨牛を提供しＰＲ（平成２４年１月６日）

【中京圏】

・愛知県で行われた「ドームうまいもんワールド」や、富山県で行われた「越中とやま食の王国フェスタ」に出展し、県産農産物の試食販売・ＰＲ活動を実施

○大都市圏での農産物ＰＲ販売支援

・「マルシェ・ジャポンなごや（名古屋市）」「いろどりマルシェ（大阪市）」への農産物等の出店（名古屋：６月～３月・のべ３１団体、大阪：６月～７月・のべ２団体）

○青果物フェアの開催支援

・全農岐阜県本部が出荷市場と連携して行う販売促進活動に対する支援
関西圏（量販店延べ１７店舗）、中京圏（量販店延べ７９店舗）で実施

■地産地消・業務需要拡大の推進

県産農産物等の地産地消・業務用需要拡大を推進するため、飛騨美濃ふれっしゅ直行便の開催、北陸圏での県産農産物の販売ＰＲの実施、業務用需要拡大に向けた産地見学会および商談会等を開催。

・県産農産物とその加工品を一堂に集めてＰＲする第２５回岐阜県農業フェスティバルを県庁周辺で開催。（平成２３年１０月２２日～２３日）

・県産農産物と県内の朝市・直売所を中京圏でＰＲするため「飛騨美濃ふれっしゅ直行便」を名古屋市で開催。（金山総合駅イベント広場３回）

・県産農産物等のイメージアップを図るためＴＶ番組等や県外でのイベントを通じてＰＲを実施。

（ＴＶ番組）

・「プチ・クッキング」（ぎふチャン、中部電力提供）

（県外イベント）

・「とやま食の王国フェスタ２０１０」／富山市（平成２３年１０月２９日～３０日）
・「農林水産祭実りのフェスティバル」／東京都（平成２３年１１月４日～５日）

・農業者と県内及び中京圏の食品関連事業者とのマッチング機会の創出及び業務用需要の拡大を図るため、外食産業を中心とした事業者のバイヤー等を対象に産地見学会、商談会を開催。

（ひだみの農産物・加工品産地見学会）
・第１回／飛騨地域（平成２３年８月３日）、
第２回／可茂地域（平成２３年９月６日）

（ひだみの農産物・加工品商談会）
・第１回／岐阜市（平成２３年１１月１７日）、
第２回／名古屋市（平成２４年１月３１日）

■活力ある新産地づくり支援事業

１１品目、１４地域で地域の特徴を活かした農産物による「活力ある新産地づくり」を推進するため、各農林事務所の普及指導員が、高い専門技術力及びコーディネート機能を発揮し、各産地の技術力の向上、新規生産者の確保、新商品開発等の支援を行った。

また、関係機関の間に入って地域内で合意形成を進め、各地域に「産地戦略会議」を設置すると伴に、今後３～５年間の振興方針等を定めた「産地育成計画」の策定を支援した。

■飛騨・美濃伝統野菜のＰＲ

・県内の特色ある野菜・果樹の中で「飛騨・美濃伝統野菜」として、認証制度設立（平成１４年度）以降、現在に至るまでに２７品目を認証している。

・認証した品目については、「飛騨・美濃伝統野菜」認証マークを添付した販売や、イベント等で特徴について紹介したリーフレットの配布、マスコミ・フリーペーパー等でのＰＲを行った。

■「ぎふ清流国体」に向けた地域ブランドの研究開発の推進

平成２４年に開催される「ぎふ清流国体・ぎふ清流大会」に向け、県内産業の活性化を図るため、新たな地域ブランド品の開発と実用化を目指している。

平成２３年度は、本事業最終年度に当り、県オリジナルブランド開発品７品目の開発がほぼ終了し、ほとんどの産品で販売が始まりつつある段階になった。そのため、一層の生産振興を目指し、研究成果と開発産品を広く県民に理解していただくため、研究開発と同時にＰＲ活動を行った。

○定例知事記者会見での発表と試食会

平成２３年１０月１９日定例知事記者会見においてブランド開発品７品目の紹介と同時に、試食会を実施した。

開発品の展示・紹介

開発品の試食

○県農業フェスティバルでの開発品販売によるＰＲ

平成２３年１０月２２、２３日に開催された県農業フェスティバルにおいて、ブランド開発品の紹介及び生産関係団体による販売を実施し、一般県民へのＰＲを行った。

開発品の展示・紹介

生産関係団体による開発品の販売

○国体に向けた県民総決起大会でのＰＲ

平成２４年１月２０日に開催された「国体に向けた県民総決起大会」において、ブランド開発品の紹介と試食を行った。

開発品の展示・紹介

開発品（クリ「ぽろたん」、霜降り豚肉、カジカ）

○研究開発

	目　　標	平成２３年度の取組
国体に彩りを添える「花き新品種」の育成	○新品種登録(平成23年度までに) ・切り花：２品種 岐阜県を代表するトルコギキョウ ・鉢　花：１品種 岐阜県が育成した新しい品目フランネルフラワーの新品種 ・花壇苗：１品種	○新品種の育成・選抜 ・トルコギキョウでシンフォニーシリーズ２品種を育成 ・フランネルフラワー新品種「エンジェルスター」を育成 ・花壇用サルビア種間雑種系統からフェニックスシリーズ３品種を育成
「夏秋イチゴ」の高品質安定生産技術の確立	○高温期における栽培管理技術の確立 ・収量の向上及び安定化 現状：１．５ｔ/10a→目標：２．５ｔ/10a ○県オリジナル品種の育成 ・民間育成の主力品種と同等の品質を有する新品種	○生産技術の開発 ・現地検討会、試験成績検討会を通して技術・普及の支援 ・品種「すずあかね」の生育特性を解明し、「栽培指針」を作成 ○新品種の育成 ・秋植え栽培や低標高地の春、秋穫り栽培に適する品種として「岐系２号」を選定
早生「甘カキ」の高品質安定生産技術の確立	○「早秋」の結実・収量の安定 ・現状：150kg/10a→目標：1.5ｔ/10a ○「太秋」の汚損果の発生抑制(収量比) ・現状：30～50%以上→目標：30%以下	○生理落果発生対策（早秋） ・適正な樹勢管理と人工授粉による生理落果の軽減 ○汚損果発生対策（太秋） ・光反射資材、袋かけ栽培による汚損果軽減技術の確立
大粒「クリ」の新品種(ぽろたん)を使った加工技術及び病害虫果発生抑制技術の開発	○新しい加工品及び加工技術の開発 ・和菓子・洋菓子等新しい加工品の開発 ・一般家庭向け調理方法の検討（レシピの紹介、味覚を活かす加工法の検討) ○病害虫果の発生抑制（全収量比） ・現状：30%→目標：10%以下	○菓子業者と連携した加工品の開発 ・県内外の菓子店、料理店の協力でお菓子14品、料理11品の試作品を製造 ○ぽろたん用の傷入れハサミの開発 ・県内刃物業者と「ぽろたん用ハサミ」を考案し、ＰＲを実施 ○一般消費者より公募したレシピを基にレシピ集を作成 ○病害虫果発生抑制技術の確立 ・黒変果の発生実態を明らかにすると同時に、発生原因を究明。
県産豚肉の高品質化技術の確立	○霜降り豚肉の開発 ・牛肉の「サシ」のような付加価値化 ○ドリップロス低減技術の開発 ・店頭販売時のドリップロス低減 目標：現状の50%削減 ・開発飼料による飼養管理技術の確立	○豚肉質差別化技術の構築 ・「ボーノブラウン」の精液と開発飼料により、霜降り割合が高いブランド豚肉の生産を開始 ○肉質評価指標の作出 ・豚ロース肉の霜降り割合の評価指標を作出 ○ドリップロス低減飼料の開発 ・開発飼料によるドリップロス低減効果を実証

カジカの養殖技術の確立	○採卵安定化・量産化技術の開発 ・国体時：33,000尾の供給 ○新たな地域特産品の育成 ・温泉旅館や料理店と連携した新しい地域特産品の開発	○簡易なカジカ養殖システムの開発・普及 ・効率的生産技術の検討 ・カジカ養殖研究会を定期的な開催による技術指導 ○特産品化を目指した新商品の開発 ・カジカ養殖研究会と連携し、カジカ料理、土産品の試作、一部で販売開始 ・カジカ提供店のパンフレットを作成
ぎふ清流国体に向けた新しい陶磁器食器の開発	○環境負荷低減エコ食器の開発 ・廃食器配合(リサイクル)率の向上 現状：20%→目標：50%以上 ・焼成温度の低下→目標：1,150℃以下 ・温室効果ガス　従来比15%以上削減 ○軽量強化磁器食器の開発 ・磁器食器特性の向上（既存品比） 強度：既存品並、重量：20%軽量化	○リサイクル食器の開発 ・リサイクル率50%の食器を開発 ・1,150℃焼成で強度が30%向上する透明釉薬を開発 ○軽量強化磁器食器の試作品開発 ・量産化方法を検討

■ぎふ清流国体・ぎふ清流大会時に全国の選手らをもてなす料理のコンテストを開催

ぎふ清流国体・ぎふ清流大会開催に向け、開催気運の高揚及び県産食材の地産地消の推進を図るとともに、２０１２年に開催される両大会に全国から訪れる選手・監督等の大会参加者を「食」の面から温かくおもてなしするため、岐阜県の食材を用いたアイデア料理や自慢の家庭料理等を募集し「おもてなし料理・菓子コンテスト」を開催。

特にコンテストの優秀作品については、両大会の献立レシピ「ミナモのおもてなし献立レシピ」に掲載し、民泊及び宿泊施設での食事の提供に役立てていく予定。

平成２２年１０月１６日（土)、石井学園城南高校において、第２次審査（試食審査）を開催し、応募作品８４８点の中から以下の通り最優秀賞（プロ部門、アマチュア部門各１点)、優秀賞（プロ部門、アマチュア部門各２点)、社団法人岐阜県調理師連合会会長賞（プロ部門、アマチュア部門各１点)、農政部長賞（プロ部門、アマチュア部門各２点）を決定。

なお、プロ部門の作品中、奥美濃古地鶏の料理や、県産米粉を使った焼ドーナツ等２３品目が市販化されている。

また、一般からの応募作品では、３４作品、約１１万４千食(平成２４年５月末現在)が、小中学校等の給食で活用されている。

最優秀賞 プロ部門
（ごはんの部）
「白川発～豆腐と飛騨牛の隠れん坊カレー鍋～」

最優秀賞 アマチュア部門
（おやつ・デザートの部）
「大！うまい根！（おお！うまいね！）」

優秀賞 プロ部門
（おやつ・デザートの部）
「空穂屋(UTSUBOYA)焼ドーナツ」

優秀賞 アマチュア部門
（おやつ・デザートの部）
「勢隆　ちから」

優秀賞 プロ部門
（おかずの部）
「奥美濃古地鶏南蛮と秋野菜のラタトュユ」

優秀賞 アマチュア部門
（おかずの部）
「やわらか里芋ハンバーグ」

(社)岐阜県調理師連合会会長賞 プロ部門
(おかずの部)
「けんとん極みのトマト味噌鍋」

(社)岐阜県調理師連合会会長賞 アマチュア部門
(弁当の部)
「ぎふ清流紀行 ーミナモ弁当―」

農政部長賞 プロ部門
(弁当の部)
「飛騨牛 勝つ！重」

農政部長賞 アマチュア部門
(おやつ・デザートの部)
「もちっ粉・岐阜っ子・柿っ恋ロール！？」

農政部長賞 プロ部門
(おやつ・デザートの部)
「キャラメルポムデュリ」

農政部長賞 アマチュア部門
(おかずの部)
「誰もが主役ナンです!!～山の幸であご
のシャキシャキ運動をしよう～」

■ぎふの味・伝承名人認定事業による県産品のＰＲ

県内の調理技術に優れた調理師を対象に岐阜県産の「こだわり食材」を使用した料理コンクールを開催し、優秀な成績を収めた２名を「ぎふの味・伝承名人」に認定した。コンクールの食材に県産品を指定することにより素材のＰＲを行った。

〇平成２３年度ぎふの味・伝承名人認定コンクールの開催

開催日：平成２３年８月２４日

場　所：城南高等学校

課　題：主材料は、けんとん及び岐阜県産きのこを必ず使用すること。副材料は県産のトマト・ほうれん草・大根・ナスのうち２品以上使用すること。

■ぎふ性能表示材のブランド化の推進

木材の含水率や曲げ性能などの品質・性能を表示した「ぎふ性能表示材」について、制度を運営する「ぎふ性能表示材認証センター」の活動を支援し、安定供給体制整備を進めた。（平成２３年度実績：ぎふ性能表示材出荷量７，７１９㎥）

【ぎふ性能表示材ラベル】

■ぎふの木で家づくりの推進

県産材の利用促進を図るため、住宅の構造材や内装材に一定量の県産材を使用した建築主に対し、経費の一部を助成した。（平成２３年度実績：構造材補助１６０棟、内装材補助７３棟）

5 まちづくり支援・移住定住推進プロジェクト

■「まちづくり支援チーム」「ふるさと応援チーム」の派遣等によるまちづくり支援の推進

地域主体で行われるまちづくりに対する一元的な相談窓口「まちづくり総合窓口」を設置し、実際に現地に赴いて各地域の実情を把握することにより、効果的な対応と支援策を住民の方々と一緒に進めていく「まちづくり支援チーム」を４地区（新規１、継続３）に派遣した。

また、過疎、山村地域などの農村部の元気づくりを支援するための「ふるさと応援チーム」を３地区（新規２、継続１）に派遣した。

さらに、外部専門家などによる相談や調査を行う「まちづくりアドバイザー派遣」や、まちづくり支援チームの派遣地域において、自立的なまちづくり活動を促す「自立的まちづくり応援補助金」により活動を支援した。

【まちづくり支援チームの派遣】

○揖斐川町谷汲門前地区（平成１９年６月～平成２４年３月）

かつての活気やにぎわいを取り戻すため、門前町に相応しい街並みづくりと交流人口の増加に資する様々な取組（イベント等）を支援した。県の支援チーム派遣期間は終了したが、今後も自立的な活動が継続して行われることを期待し、谷汲門前地区を「元気なふるさと」として認定した。

＜平成２３年度派遣実績＞　延べ１４回

○土岐市駄知地区（平成２０年５月～）

陶磁器による産業観光を活かしたまちづくりを目的に、交流人口の増加による地域経済の活性化、陶磁器産業のブランド力の向上が図られるようイベント実施等を支援した。

＜平成２３年度派遣実績＞　延べ４回

○御嵩町御嶽宿地区（平成２０年９月～）

地域内の歴史資源である旧中山道御嶽宿における景観整備や、願興寺、みたけの森、中山道謡坂等の資源を活用した交流イベントの実施など、交流人口の増加に向けた取組を支援した。

＜平成２３年度派遣実績＞　延べ８回

＜御嵩町御嶽宿＞
国土交通省「手づくり郷土賞」認定証授与式

○土岐市土岐津町高山地区（平成２３年１１月～）
　歴史と文化を活かしたまちづくりを進めるため、地域住民によるまちづくりビジョンの策定や、灯籠設置による景観整備活動を支援した。
＜平成２３年度派遣実績＞　延べ６回

【ふるさと応援チームの派遣】
○郡上市明宝地区（平成２２年９月～）
　移住定住の推進、特産品開発（ブランド化）、観光交流活動などの活動を連携させ、人口流出抑制と地域経済の振興を図るため、地域住民によるワークショップの開催や、イベント実施を支援した。
＜平成２３年度派遣実績＞　延べ８回
○関市板取地区（平成２３年８月～）
　都市部との交流人口の増加を図るため、緑豊かな自然を生かして実施する子ども農山漁村体験プログラム事業の展開方法、ＰＲ手法等について助言を行った。
＜平成２３年度派遣実績＞　延べ４回
○関市上之保地区（平成２３年８月～）
　地域住民の意思を十分に盛り込んだ将来の進むべき姿を示すため、地域住民らによる組織が中心となって行う「上之保地域振興計画」の策定を支援した。
＜平成２３年度派遣実績＞　延べ６回

【まちづくりアドバイザーの派遣】

地域住民やＮＰＯ、任意団体等が、市町村と連携してまちづくりの推進に関する研修会等を行う際に、外部有識者（専門家）をまちづくりアドバイザーとして派遣し、地域が主体となった地域資源の発掘、評価、活用方策等についての助言を行った。

＜平成２３年度派遣実績＞　延べ３回

【自立的まちづくり応援補助金の交付】

まちづくり支援チームの派遣地域において、活動を進める団体が地域の魅力を向上させるとともに、住民の参画意識の高い自主・自立的なまちづくり活動を促すため、住民自ら行う町並みの景観整備、交流拠点整備等に対して補助した。

＜平成２３年度交付実績＞　３件　９８８千円

■「地域がんばり隊」の導入による過疎地域の振興

過疎地域の実情に精通した地域住民等により組織された協議会、自治会、ＮＰＯ法人等が「地域がんばり隊員」を募集・採用し、地域に駐在させて過疎地域における課題解決や地域活性化のための取組に従事させるとともに地域密着型の人材を育成し、今後の地域貢献につなげることを目的とし実施した。

＜平成２３年度事業＞

委託先	活動地域
特定非営利活動法人　福寿の里自然倶楽部	恵那市　上矢作地域
特定非営利活動法人　たからのやま久瀬	揖斐川町　久瀬地域
特定非営利活動法人　洞戸村ふるさと塾	関市　洞戸地域
山之村観光株式会社	飛騨市　神岡町（山之村）地域
認定特定非営利活動法人　ソムニード	高山市　上宝町・奥飛騨温泉郷地域
特定非営利活動法人　武芸川福祉サービスセンター愛	関市　武芸川町地内

「地域がんばり隊」飛騨市での活動（農作業支援）

■「地域振興チャレンジ事業」による過疎地域の振興

主に過疎地域における継続的な雇用及び地域の資源を活用した経済的発展を図るため、人材の確保と特産品開発や観光交流、農林業など新たなビジネスへのチャレンジを行う団体等を支援した。

＜平成２３年度実績＞

委託先：地域振興に取り組む道の駅や民間、地域づくり団体等１０団体

実施内容：特産品開発、ブランド化、観光交流事業等

「地域振興チャレンジ事業」委託業務　事業概要

	受　託　者	所在地	事　業　名
1	株式会社 関むぎパッションフルーツ協同組合	関市	関市武儀地域のパッションフルーツを活用した新商品開発と全国的販路拡大
2	石徹白地区地域づくり協議会	郡上市	いとしろ特産品事業化のための集中的取組事業
3	奥美濃カレー協同組合	郡上市	奥美濃カレーブランド確立事業
4	有限会社新世紀工房 （道の駅　茶の里東白川）	東白川村	道の駅をサテライトスタジオにした新たな「食」ビジネスの展開　「食」で広げる雇用と定住事業
5	特定非営利活動法人 田舎暮らし応援ネットぎふ	中津川市	田舎暮らし応援活動及び地域と協同した特産品の開発
6	特定非営利活動法人 飛騨高山町家再生・住替え支援センター	高山市	飛騨高山　町家再生・住替え支援・就労支援事業
7	有限会社のりくら倶楽部	高山市	循環社会としての「乗鞍モデル」創造事業
8	山之村牧場株式会社	飛騨市	「天空の牧場　山之村」プロジェクト
9	神岡街歩きガイド	飛騨市	神岡街歩きガイド推進事業
10	株式会社鈴小坂	下呂市	がんたて公園活性化と特産品（小坂スモーク）を活用した小坂地域の情報発信事業

■移住・定住の推進

人口減少社会においても地域が活力を保ち続けるために、「地域の将来を支える人を呼び込む」という視点から、岐阜県の魅力を広く発信し、本県への移住・定住を促進する各種事業を実施した。

○ぎふ ふるさと暮らし応援キャンペーンの実施

田舎暮らしの魅力や相談会、体験ツアーなどの情報を愛知・名古屋の住民に発信するキャンペーンを実施

実施期間：平成２３年７月～平成２４年３月

内　　容：ぎふふるさと暮らし応援センターの設置
（中日ビル（名古屋市中区栄）・来場者数約６５，０００名）
キャラバン隊によるＰＲ活動（名古屋市内・延べ３３箇所）

○移住・定住相談会の開催
本県への移住相談の多い愛知・名古屋圏にて定期に出張相談窓口を開設
「月例・名古屋相談会」（年１２回［毎月１０日］・参加者数１９０名）
「総合移住相談会 in 名古屋」（年２回［７月・１月］・参加者数２７７名）

○地域の世話役養成塾の開講
市町村から推薦のあった世話役候補者を対象に、先進的な取組に関する情報収集や、世話役相互のネットワークづくりを行うための養成塾を開講
場　所：ゲストハウス「笑び」（美濃市）
出席者：世話役候補者１５名、市町村担当者１２名

総合移住相談会 in 名古屋
（H23.7.31、H24.1.29）

ぎふふるさと暮らし応援センター
（H23.7～H24.3）

地域の世話役養成塾
（H23.11.25）

■グリーン・ツーリズムの推進〈再掲〉

■民間団体による農山村定住・交流人口増加につながる取組を支援

県内の地域資源（自然、文化・伝統、農林地等）を活用し、農山村の定住・交流人口の増加につながる新しいビジネスモデルの構築とその実証を行った。

・ぎふ農業協同組合(岐阜市)･･･特産品・農産加工品開発、都市農村交流
・ＮＰＯ法人メタセコイアの森の仲間たち(郡上市)･･･都市農村交流、猟師事業
・ＮＰＯ法人山菜の里いび(揖斐川町)･･･都市農村交流、耕作放棄地再生・特産品開発
・株式会社和仁農園(高山市)･･･農業体験、子ども対象の環境調査、耕作放棄地調査
・株式会社モールデック（各務原市）･･･ﾄﾚｰﾗｰﾊｳｽによる滞在型市民農園事業

■小規模・高齢化集落における担い手対策の支援

県下の中山間地域における担い手のいない小規模・高齢化集落よりモデル集落を選定し（４集落）、県職員で組織する「集落営農組織化支援チーム」と就農希望者等から採用した「集落営農サポーター」をモデル集落へ派遣し、集落営農の組織化など集落実態に応じた集落農地を共同で守る仕組づくりに向けた活動を支援した。

【各モデル集落の活動状況】

集　落　名 （農家戸数、耕地面積）	集落営農 サポーター	主な活動
本巣市根尾能郷集落 （10 戸、12ha）	６２歳男性 本巣市出身	・鳥獣被害防護柵のモデル設置 ・集落営農の組織化に向けた意向調査、研修会の の開催　等
揖斐川町坂内広瀬西集落 （11 戸、10ha）	２７歳男性 本巣市出身	・鳥獣被害防止対策研修会の開催 ・集落営農の組織化を目指した意向調査、研修会等 の開催　等
白川町下佐見室山集落 （ 6 戸、 5ha）	３８歳男性 名古屋市出身	・大学生との農作業交流ボランティア事業の試行的 実施 ・県民協働で農地を守る仕組みづくりを目指した研 修会の開催　等
土岐市鶴里町柿野西町集 落　（13 戸、5ha）	５６歳男性 瑞浪市出身	・耕作放棄地解消活動（景観作物、学校給食向け野 菜等作付け）の実施 ・集落営農の組織化に向けた意向調査、研修会の 開催　等

■棚田の保全と魅力のＰＲ

棚田保全に対する意識向上を図るため、棚田の魅力や保全活動の必要性を普及し都市住民等に活動参加を促すなどの棚田保全活動の推進、支援を実施した。

○普及啓発活動

「ぎふの棚田２１選」ＰＲ看板等の設置：２地区

・三ヶ村・畑ヶ谷棚田（郡上市）

・大円寺棚田（恵那市）

「ぎふの棚田２１選」ＰＲパンフレットの作成

○棚田保全組織への支援

棚田保全活動への支援を実施：６地区

・坂折棚田保存会（恵那市）

・栃久保棚田保存会（恵那市）

・猪狩棚田保存会（恵那市）

・種蔵を守り育む会（飛騨市）

・小川高洞棚田保全会（下呂市）

・正ヶ洞棚田を守る会（郡上市）

ぎふの棚田２１選パンフレット

棚田保全活動（石積維持作業）

■ぎふ水土里のプロジェクト

豊かな生態系や美しい景観、農村固有の伝統文化など県内の農村にある魅力を広く県民の方々に知ってもらうと共に、多くの方が農地や農業用水等の地域資源に触れ、県全体で魅力ある農村づくりに取り組む運動を実施した。

〇普及啓発活動

・ぎふ水土里の展示会（農業フェスティバルや各圏域で実施）

・ぎふ水土里の体験スタンプラリー（県内各地９回開催：延べ１，６３６人）

〇体験活動

・農地・水・農村環境保全向上活動（５３３組織：約２５，０００ｈａ）

・ぎふ水土里の探検隊（４地区）

・ぎふ田んぼの学校　（県内各地１０回開催）

ぎふ水土里の体験スタンプラリー

ぎふ田んぼの学校

■ＪＲ岐阜駅周辺地域の集客力向上と消費拡大につながるにぎわい創出

新しいにぎわい創出空間「EKI-Site43Gifu（エキサイト４３ギフ）」の３つのサイトで、時間帯や季節に合わせた魅力的なショップの運営や多彩なイベントを実施するとともに、卸売機能の充実や通信販売によって販路を拡大した。

アクティブＧの店舗スペースを活用し、魅力ある県産品や岐阜にゆかりのある商品のセ

レクトショップ「ナガラガワフレーバー＋Ｇ」を運営するとともに、アクティブＧ全体の集客・売上げの増加につながるイベント・プロモーションを実施し、エキナカ機能の充実・強化を図った。

■中心市街地の空き店舗を活用したまちなかの集客力・回遊性向上

まちなかの空き店舗等を活用し、地域情報や観光サービスの提供、地元農産品を使った飲食サービスや土産品販売、県内各地の特産品の販売等を行う５箇所の集客拠点施設を運営するとともに、年間を通じて中心市街地回遊型イベントを開催した。

ＪＲ多治見駅前の多治見ながせ商店街の空き店舗を活用したにぎわい拠点「カフェ温土」を運営するとともに、近郊で実施されるイベントなどで情報発信を実施した。

■スマートフォンアプリケーション開発拠点の確立

急速な市場拡大が進んでいるスマートフォンアプリケーションの開発人材の集積、交流や情報発信を行うため、ソフトピアジャパン・ドリームコア内において、人材育成・交流拠点「モバイルコア」を運営。アプリ開発講座「iPhone 塾・Android 塾」や異業種・異分野の情報交換会「モバイルカフェ」の開催、アプリ開発ベンチャーに開発環境を提供する「iPhone フロア」の設置など、様々な事業を展開することにより、他県に例のないスマートフォンアプリ開発拠点としての地位を確立し、ソフトピアジャパンの更なる魅力向上と賑わいの創出を図った。

＜平成２３年度実績＞

iPhone 塾・Android 塾：１８６講座開催　受講者のべ１，５０６名

モバイルカフェ　　：５４回　参加者のべ２，５５２名

■電線共同溝事業の推進

都市災害の防止、安全で快適な歩行空間の確保、歴史的町並の保全等都市景観の向上を図るため、引き続き道路上の電線類の地中化を推進した。

〈無電柱化推進計画に基づく整備状況〉

・第一期電線類地中化計画（昭和６１年～平成　２年）：　７．３０ｋｍ
・第二期電線類地中化計画（平成　３年～平成　６年）：　７．２５ｋｍ
・第三期電線類地中化計画（平成　７年～平成１０年）：１７．５１ｋｍ
・新電線類地中化計画　　（平成１１年～平成１５年）：２２．１８ｋｍ
・無電柱化推進計画　　（平成１６年～平成２０年）：１３．１４ｋｍ
・第二期無電柱化推進計画（平成２１年～平成２５年）：３６．３ｋｍ

※第二期無電柱化推進計画の３６．３０ｋｍについては整備予定延長

■中山道統一デザイン案内標識設置の促進　〈再掲〉

■美しいひだ・みの景観づくりの推進

地域の自然や歴史と調和した景観の保全を図るため、市町村の景観行政団体への移行、景観計画の策定を支援するとともに、景観シンポジウムの開催や屋外広告物対策を推進した。

○県内の景観行政団体：１８団体（平成２４年３月末現在）

○県内の景観計画策定団体：１３団体（平成２４年３月末現在）

○平成２３年度景観シンポジウム

・日時：平成２３年１１月１６日（水）

・場所：郡上市総合文化センター

・内容：基調講演「蘇る山水都市」

パネルディスカッションテーマ「心が宿る郡上の郷」

○屋外広告物対策の強化

屋外広告物に対する県民の意識高揚と良好な景観の形成を図ることを目的として、９月１日から９月１０日を「屋外広告物適正化旬間」と定め、県下全市町村において一斉に違反広告物の簡易除却を実施した。

・平成２３年度除却件数：２７９件

景観シンポジウム　　パネルディスカッション

■重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業等への支援

国が選定した重要伝統的建造物群保存地区５地区について、当該市村の保存事業に関し指導助言を行うとともに、修理・修景などの保存修理事業に対して補助を実施した。

＜重要伝統的建造物群保存地区＞

・恵那市岩村町本通り伝統的建造物群保存地区

・高山市三町伝統的建造物群地区

・高山市下二之町大新町伝統的建造物群保存地区

・美濃市美濃町伝統的建造物群保存地区

・白川村荻町伝統的建造物群保存地区

６「ふるさとの誇り」づくりプロジェクト

■ぎふ清流国体・ぎふ清流大会県民運動（ミナモ運動）の展開

両大会の開催気運を盛り上げ、全国から訪れる多くの人々を温かくお迎えし、思い出に残る大会とするため、平成２１年度４月に発表した「ミナモ運動推進計画」に基づき、３つの分野で６つの運動を掲げ、両大会の県民運動「ミナモ運動」として展開する。

・ミナモ運動に自主的に取り組み多くの住民への普及、浸透を図っている個人・団体を「ミナモ運動地域推進リーダー」として表彰
・聴覚障がい者を手話や要約筆記で支援いただく情報支援ボランティア、開・閉会式や競技会で受付や美化活動等の支援をいただく運営ボランティアの研修の実施
・県民運動を分かりやすく解説し、これまでの取組を紹介するガイドブックを改訂
・おもてなし活動、花かざり活動、環境美化活動等を大会ホームページで紹介し、取組を促進

■清流の国ぎふづくり県民大会の開催

全国豊かな海づくり大会を契機に高まりをみせた森・川・海が一体となった環境保全に対する県民意識を継承し、岐阜県の誇る「清流」を守り、活かし、次世代に伝えていく取組を「清流の国ぎふづくり」として、県民協働で推進するため、平成２３年７月１８日に、「清流の国ぎふづくり県民大会」を岐阜市において開催した。

本大会では、ぎふ清流環境賞の表彰、「森川海のつながりを活かした清流の国づくり」をテーマとするパネルディスカッション、清流の国ぎふづくり宣言のほか、環境保全団体等の活動展示を行い、県民の環境保全に対する意識の醸成を図った。

■全国豊かな海づくり大会１周年記念行事の開催

平成２３年６月１２日（日）、第３０回全国豊かな海づくり大会～ぎふ長良川大会～１周年記念行事を関市文化会館市民広場で開催した。

行事内容は、①御製碑・関市記念碑除幕、②開催記念碑・東屋紹介、③御製碑・関市記念碑碑文紹介、④みんなで清流づくり、⑤カスタネットの演出であった。

第３０回全国豊かな海づくり大会岐阜県実行委員会関係者、出演者、地元関市協力者など約３００人が出席した。

海づくり大会開催から１周年を迎え、この地で本大会が開催されたことを後世に残し、大会の開催意義を十分に再確認した。

■清流の国ぎふづくり上下流交流事業

岐阜県の誇りである「清流」を守り、活かし、次世代に伝える取組を清流の国ぎふづくりとして県民協働で推進していくため、上下流域の地域住民が、森・川・海のつながりや自然環境等への理解を深め、環境保全意識を育むツアーや交流会（以下「ツアー等」と言う。）を実施した。

・県内及び近隣県にお住まいの親子を対象として、岐阜県を流れる主要河川をたどるツアー等を、２１回開催し、県内外から親子等約８７０人の参加を得た。
・ツアー等では、森・川・海のつながりについて参加者の意識を高める環境学習、自然体験、環境保全活動などを実施。

海岸清掃活動

川の生きもの調べ

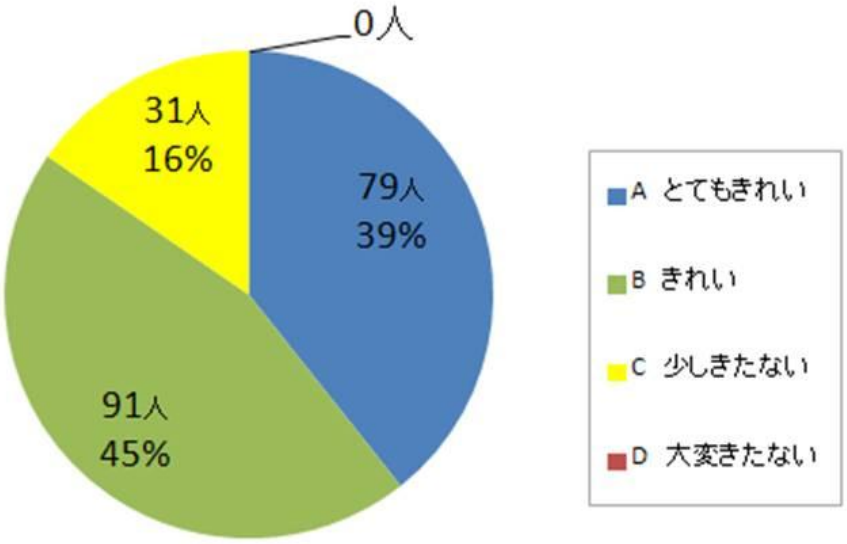
■一万人県民による河川調査

各自がもつ「感覚」を用いて身近な河川や水辺の様子について、においやゴミの量など６つの項目を調べ、それらの状態を評価し、報告していただくよう県民に広く呼び掛けた。

自分たちでできる調査方法で地域の水辺を調べ評価することで、身近な水環境を見つめ直すきっかけとなることを期待するもの。

平成２３年度実績

団体数	のべ人数	調査河川数	地点数	のべ地点数
７７	４７８１	７３	１１７	１９９



総合評価割合（平成２３年度）

■清流ぎふ水環境シンポジウムの開催

「清流の国ぎふづくり」を県民一丸となって推進するために、 平成２３年７月２７日、２８日に「清流ぎふ水環境シンポジウム」を開催した。会場には２日間で延べ約６６０名の方が来場し、盛況のうちに終了した。

本シンポジウムでは、自然環境の保全に配慮した川づくりの国内の第一人者でもある島谷幸宏九州大学大学院教授を迎え、「想定を超える災害に対する多自然川づくりの位置づけ」をテーマに講演いただくとともに、「川の防災」、「生物多様性」、「生物に配慮した事業」について、地域の活動者、学識者や行政関係者等が実施した調査・研究・活動の成果の発表を行い、相互の理解や連携を深めた。

基調講演と参加者の状況

■川の体験学習の支援

子ども達に川を題材として身近な環境を体感してもらう、また、私達の暮らしを守る川の役割を知ってもらうことによって、未来の地球環境や水害軽減のための取組のあり方を

考えるパートナーを育もうと、平成１３年度より川を題材とした「総合的な学習の時間」に取り組む団体への支援を継続的に行っている。

平成２３年度は、県内５３の小中学校及び地域のＮＰＯ団体等が、河川をフィールドとした水質調査や生物調査などを行い、県はその支援を実施した。

水生生物調査の実施　　状況

平成２３年度実績

実施校数	学年	実施延べ人数	実施回数
５３校	５３学年	約３，３４０名	６６回

■食農教育の推進

幼稚園・保育園（所）での食育の機会を、調理体験を通じて拡充するとともに、食に関わる人や地元食材を身近に感じながら体系的に学習できるようにして子ども達の食や地域農業への理解を深めた。

・平成１８年度に県が作成した「幼児食農教育プログラム」の内容を取り入れて食育を実践するモデル園はこれまでに８１園を認定。
・食農教育の教材として、野菜種子及び肥料を希望するモデル園に対し配布。
・調理体験を含む食農教育の機会を提供するため、幼稚園・保育園（所）に調理体験支援チームを派遣し、キッズキッチンの手法を取り入れた調理体験活動を実施。
（４４施設、７２回）

■社会教育文化施設における企画展示

ふるさとへの誇りと愛情を醸成するために、岐阜県博物館、岐阜県美術館において、岐阜県ゆかりのテーマによる企画展示を実施した。

○岐阜県博物館

・赤坂　金生山　～新川化石コレクション～　(H23/4/23～6/26)
・昆虫の世界　～色と形の不思議～　(H23/7/9～9/11)
・開館３５周年記念特別展　濃尾震災１２０年　(H23/9/13～11/13)

・発掘された飛騨・美濃の歴史　(H23/11/15～H24/1/15)
・日本自然科学写真協会写真展自然を楽しむ科学の眼　(H24/2/11～3/25)
○岐阜県美術館
・伊藤慶二　こころの尺度　Getting My Measure
＋林武史　石の舞・土の宴　Energetic Field　(H23/2/22～5/8)
・ドキュメンタリー岐阜１３５　(H23/10/12～H24/1/15)
・リニューアルオープン記念初公開作品を含む
岐阜県美術館コレクションの精髄による三幕の物語　(H24/1/11～5/13)
・第６回円空大賞展　(H24/2/10～3/4)

■「岐阜～ふるさとを学ぶ日」（１１月３日文化の日）に、県立４文化施設の無料開放と、協賛する県内６１の博物館・資料館での企画展や入場料無料などを実施

「岐阜～ふるさとを学ぶ日（１１月３日文化の日）」に、県立４文化施設（岐阜県博物館、岐阜県美術館、岐阜県現代陶芸美術館、高山陣屋）を無料開放するとともに、特別展などイベント開催により文化・芸術に親しむ機会を提供した。併せて、協賛する県内６１の博物館・資料館において、ふるさとについて学べる企画や展示を実施するとともに、入場料無料や割引などを実施した。

■岐阜県文芸祭における「飛騨美濃じまん部門」の実施

岐阜県文芸祭に「飛騨美濃じまん部門」を設置し、ふるさと岐阜県の風景、生活、民俗、伝承、歴史上の人物など岐阜県の自慢話や岐阜県の魅力を伝える作品を募集し、顕彰を行った。

・応募総数　１６０点（飛騨美濃じまん賞１０点、奨励賞５点、佳作９点）
・表 彰 式　平成２４年３月３日（土）ふれあい福寿会館

■ひだ・みの創作オペラの開催

飛騨・美濃の特性を生かした誇りの持てるふるさとづくりを推進するため、県内各地に伝わる自然や歴史・昔話を題材に、地元の出演者、スタッフ、ボランティア等が一体となり創作する県民参加型のオペラを開催した。

・日時　平成２４年２月２５日（土）、２６（日）
・場所　中津川市・東美濃ふれあいセンター（歌舞伎ホール）
・内容　山のしずく　一話　義王丸　二話　椿屋敷

■美しいひだ・みの景観づくりの推進〈再掲〉

■重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業等への支援 ＜再掲＞

＜参考資料＞

・ 平成23年度の飛騨・美濃じまん運動の推進に向けた検討状況

■ 飛騨・美濃じまん地域会議

【岐阜圏域】

第１回　日時　平成２３年８月１７日（水）

議題　①「岐阜の宝もの」の新たな推薦について

【西濃圏域】

（西濃圏域「まちづくり」、「人づくり」連携会議）

第１回　日時　平成２３年８月２６日（金）

議題　①西濃圏域の新たな「岐阜の宝もの」候補の選定について

②西濃圏域の観光振興について

【中濃圏域】

第１回　日時　平成２３年８月２３日（火）

議題　①「岐阜の宝もの」の認定候補の選定

④「中濃地域ニューツーリズム実証事業」について

【東濃圏域】

（飛騨・美濃じまん東濃推進会議）

第１回　日時　平成２３年８月４日（木）

議題　①平成２２年度「じまんの原石」選定結果について

②平成２３年度「岐阜の宝もの」の推薦について

【飛騨圏域】

第１回　日時　平成２３年８月２２日（月）

議題　①「岐阜の宝もの」の推薦について

・ みんなでづくろう観光王国飛騨・美濃条例

平成１９年7月9日公布
岐阜県条例第３９号

みんなでつくろう観光王国飛騨（ひだ）・美濃（みの）条例

私たちは、古くから「飛騨の国、美濃の国」と呼ばれてきたこの岐阜県を愛してやみません。

この地は、春には桜色に包まれ、夏には深い緑におおわれ、秋には森は赤や黄色に染まり、平野は黄金色に輝き、冬には白く雪化粧をするなど、自然の生みだす五色の彩りに恵まれています。

この地には、日本人の心のふるさとの原風景がいたるところにあります。

この地は、日本の東西交流の中心地として、重要な歴史の舞台になってきました。地の利をいかした独自の文化が育まれ、商いも活発に行われてきました。

そして、太平洋側と日本海側を南北に結ぶ交通網が充実する今日、飛騨・美濃は、日本の東西南北の交流の中心として、明日（あす）の舞台になろうとしています。

おりしも、団塊の世代の人々の癒しや自らの再発見を求めたふるさと回帰が進んでいます。

さあ、飛騨・美濃にとって大交流時代の幕開けです。

日本のふるさとの良さをすべて持った飛騨・美濃が、県内外の人たちに癒しを与え、心にゆとりを与えるところとして輝くときです。

観光は、単に観光産業だけではなく、製造業、農林水産業など、幅広く地域経済へ効果をもたらす、すそ野の広いものであり、みんなで大切に育てるべきものです。こうした観光による交流を広げる取組は、明日のふるさとづくりにつながります。

飛騨・美濃には、森林、河川、温泉などの素晴らしい自然、歴史、文化、産業など、日本の貴重な財産として、世界に誇れるものが満ちあふれています。

私たちは、自信を持って、各地から多くの人たちにこの地へ観光に訪（たず）れていただくため、総力をあげて、飛騨・美濃のじまんを知ってもらい、見つけだし、創（つく）りだす飛騨・美濃じまん運動を進めます。そして、飛騨・美濃を、誇りの持てるふるさとへと発展させていくため、観光王国飛騨・美濃を私たちみんなでつくります。

（めざすもの）

第一条　私たちは、飛騨・美濃のじまんを知ってもらい、見つけだし、創りだす飛騨・美濃じまん運動（以下「じまん運動」といいます。）に取り組むことで、観光産業を基幹産業として発展させ、もって飛騨・美濃の特性をいかした誇りの持てるふるさとをつくります。

（合い言葉）

第二条　私たちは、「知ってもらおう、見つけだそう、創りだそう　ふるさとのじまん」を合い言葉に、じまん運動にみんなで取り組みます。

（じまん運動を進めるしくみ）

第四条　県は、じまん運動の方向性などを検討するしくみとして飛騨･美濃の観光を考える委員会（以下「委員会」といいます。）をつくります。

２　県は、飛騨･美濃全体にかかわるじまん運動を進めるしくみとして飛騨･美濃じまん県民会議（以下「県民会議」といいます。）をつくります。

３　県は、市町村などと協力して、それぞれの地域で、じまん運動を進めるしくみとして飛騨･美濃じまん地域会議（以下「地域会議」といいます。）をつくります。

４　県民会議と地域会議は、一体となってじまん運動を進めます。

（知ってもらおうふるさとのじまん）

第五条　私たちは、ふるさとのじまんを県内外の人たちに知ってもらうため、あらゆる機会を利用して積極的に情報を発信します。

２　私たちは、豊かな風土に育まれた農林水産物、匠の技により作りだされた地場産品などを積極的に活用するとともに販売します。

（見つけだそうふるさとのじまん）

第六条　私たちは、ふるさとの隠れたじまんを見つけだすため、ふるさとについて学びます。

２　私たちは、次の時代を担う子どもたちがふるさとに誇りを持つことができるよう、学校、地域、家庭などさまざまなところでふるさと教育を進めます。

（創りだそうふるさとのじまん）

第七条　私たちは、ふるさとのじまんを素敵なものに育てるとともに、新しいふるさとのじまんを創りだします。

２　私たちは、地場産業や地域産業が活発になるよう、ふるさとの特性をいかしたブランド力のある商品の開発に取り組みます。

（おもてなしの心）

第八条　私たちは、「いい旅　ふた旅　ぎふの旅」をキャッチフレーズに、飛騨･美濃に一人でも多くのお客様に何度でもお越しいただき、楽しんでいただくため、一人一人がおもてなしの心でお客様をお迎えします。

（美しい自然を守る観光）

第九条　私たちは、豊かで美しい自然を守るとともに、自然を観察したり体験しながらそのしくみを学び、大切にする観光を積極的に進めます。

（ふるさとの文化にふれる観光）

第十条　私たちは、古いまちなみや素晴らしいふるさとの文化などを大切にし、後世に伝えるとともに、お客様にこの文化にふれていただける観光を積極的に進めます。

（お客様にやさしいまちづくり）
第十四条　県は、市町村などと協力して、バリアフリーのやさしいまちづくりを進めるなど、年齢、性別、障害の有無などにかかわらず、お客様に楽しくすごしていただけるよう心がけます。
２　私たちは、観光施設のトイレをきれいにするなど、お客様に気持ちよく観光をしていただけるよう心がけます。

（飛騨･美濃じまんの日）
第十五条　県は、８月２１日を飛騨･美濃じまんの日とします。

（飛騨･美濃じまん運動実施計画）
第十六条　県は、じまん運動を計画的に進めるため、飛騨･美濃じまん運動実施計画を定めます。
２　県は、飛騨･美濃じまん運動実施計画を定めるときや変更するときは、委員会と県民会議の意見をききます。

（飛騨･美濃じまん白書）
第十七条　県は、毎年度、じまん運動の成果を白書としてまとめ、評価や検証をし、次の運動につなげていきます。

（その他）
第十八条　この条例に定めることのほか、必要なことについては、知事が定めます。

附　則

１　この条例は、平成十九年十月一日から施行します。
２　岐阜県観光審議会設置条例（昭和四十二年岐阜県条例第三十八号）は、廃止します。

平成24年度版　飛騨･美濃じまん白書

～平成２３年度　飛騨・美濃じまん運動の進捗について～

岐阜県　観光交流推進局
平成２４年１２月